

の教育であり、生活するために學ぶことである。即ち教科の内容は生活のための、それは生活に關聯する教材であることになる。その方法は机上で空論として述べ立てられてはならない。その土地の自然と文化に關聯して學ばしめねばならない。文部省の教科書を型の如く教へてはならないといふことである。即ち田園に立つて學ばしめる。生活と交渉を持たしめて教育する土地に和譯したり換算しての、教育ではないことである。自分の生活としてと、その土地に生育することである。

自分の生活として、その土地の生活として教育するには、その地方の環境の自由研究も結構である。繼續的に作爲的に環境の體驗をなさしめる。史實の實地研究。自然の研究、家事實習、養鶏の引受け、篤農家の訪問、産業組合の參觀、養蠶、産業、實況の調査、職業調査、園藝農場の經營、郷土の圖繪、文化史物語研究、郷土の童謡表現、生産品の研究と改善、郷土表現の手工といったことは實に多數ある。かうした生活學問をなさしめる自由時間を特設するも一方法であらうし、特設することが面白くないとすれば、時間外に置いて兒童の自由研究に委かせるのもよし。

かく地方の自由研究と實際社會の生活と生産的作爲をなさしめるにも、更らに地方實際の生活をなさしめる實際教育をなすにも、その基本としてその土地地方の調査が必要である。調査し郷土環境を統整する。そして郷土教育の體係を制立することが必要である。郷土の學習細目と學習指導案内を作製して兒童に與へる親切を欲しいのである。修身に國語に算術に、地理國史に理科に實業教科にすべての教科にわたつて、その土地に立つての學習案内、學習便覽を作製して提供してやりたいのである。かくてこそその土地の教育は具體化され、行動化されることになるのである。

學校生活の年中行事、學校年中行事は、その地方の生活に交渉を持つて作製せられてあらねばならぬ。學校はその土地の家庭と共に生活する。學校は國民人の精神的生活の實踐場であり同時にその地方民の實際生活場であるからである。國民年中行事と國民家庭行事と國民儀式とを學校生活に即せしめて、國民文化たる國民藝術、國民童話、神話、傳説、物語と修身と國史と國語とを生活させ、體驗させて心情の深みと溫みと、國民意志の決定と思想的內容の附與とをする。國家の大事は氏神と地方偉人と聖靈とに參拜し國民と共に祈願報告する等の生活も國

民教育としての地方教育にあるべき大切な行事である。

四季の遠足とか旅行とかについても、事實教育、實踐教育として考へた時、一層系統的に考へさせられることである。少なくとも系統案はなければならぬ。

## 地方化の内容 [四] 生産化と産業化

教育を地方化することは都邑なり農村なりの生活を生活せしめることでもある。精神的にも身體的にも眞面目に労働に従事する気分と、自ら信じて心身の上に精神的乃至身體的の労働をなさしめることである。その労働たるや眞の労働でなければならぬのである。眞の労働とは眞剣な労働であつて、労働を忌避の労働でない。かうした労働の生活體驗によつてのみ鞏固なる意志と、聰明なる知識と圓滿なる感情と、生きた技能とが養はれるのである。斯くすることによつて生産を體驗することとなり、それにふさはしい生産も擧げ得ることとなる。

地方實際教育に於ては生産人、職業人として用立つ人物を養成することが必要である。箱詰的や空論的なる教育は大禁物である。地方の大自然の中に開放して生活體驗的なる教育にまでとなければならぬのである。

彼のケルンシュタイナー氏が公民たるの品性習慣を作ること、職業的陶冶、國民的作爲を體驗せしめ、兒童の實力を實際的に自然的に生産的作爲に導くことを主張し、教育を實際化して公民的陶冶、職業的陶冶を力説した。氏の力説主唱するところは教育の實際化乃至生産的であり、作作的である。小學校に於ては兒童心身の發達程度に應じて漸次これを理解に導き、生産行動への導入でなければならぬのである。

ケ氏のいふ所によれば、眞の人間と云ふのは理想に於ても現實に於ても國民的生産物であり理想的の人間に到達するには、必らず有用なる人間といふ道に依らなければならぬ有用なる人間といふのは、自己の労働國民の労働を認識し、これを行ふの意志と力とを有する人である。經驗に基く知識と生産的技能を有し居るや否やによつて人の信賴の尺度とすべく、職業教育によつて人間教育が出来る。その手段は生産的勤勞である。かくて手作業と勤勞とによつて教

育せねばならぬと云つた。

生産化の學校の生活行事に於ては、學校を自治體即ちその學校が存在してゐる市なり町なり村なりの自治形體と同様な構造とし、自治の形式によつて生活せしめることもよい。又その地方の實業經濟の機關即ち購買組合、銀行の如き組織を學校に模擬導入して生活の機會とするもよし。

衛生と清潔の方面についても社會の生活形式を學校化して導入することが出来る。次ぎに生産化された行事生活をしてゐる學校生活の一例を掲げることとする。  
まづ面白いのは全校に

自治制を敷き、四年以上の學級を二區に別ち一級より區會議員一名づゝを選出し議員の互選で區長を選び毎朝授業開始前に區會を召集して學校の改革、旅行、催し物などを議決する、これに對して職員は全然關與せずに兒童の自由に任せておくので小さい議員達は盛んに論議する、そうしてこゝは男女の別がないから女議員も男と同數で喧しい婦選にさきがけてゐる譯で議決されたものは學校としては兒童最高の意見として採用される、第一區長は高等科二年のA君、第二區長は同B君でなか／＼あ

ざやかな議長振りを見せてゐる、區會と並んで商業會議所があつて會頭に高等科一年のN君が選ばれて活躍してゐる。

#### これらの會議には可

愛い新聞記者がきまつて出席するやはり兒童ばかりでやつてゐるT新聞社の記者でこの新聞は小さいながらも正式な發行手続きをすませたもので懸賞募集などにはなか／＼振つたものがある編輯主幹は高二のH君、おさげの婦人記者が時々現れて名筆を振ふところなどに目立つ、また金融機關としてU銀行があつてこゝでは學校紙幣を發行し、兒童に一ヶ月の見積りだけの紙幣が渡されると、兒童はすぐこれを銀行に預金する。

銀行では規定の利率で利子もつける、もし學用品がなくなつたら銀行から金を出してこれもまた兒童經營の商店で學校紙幣で買ふことになつてゐる。

#### そうして兒童が使ひ古

したものでまだ役に立つボール箱、抜き切、鉛筆などを一手に買ふT廢物利用株式會社が設けられ兒童の集めてきたものは學校紙幣で直當價格で買ふといふ仕組、廿日の午後は臨時株主總會が開かれて

定款ことで論議してゐた、この學校で最も勢力を有するものは社交クラブで會は四百五十名（希望によつて入會さす）客の挨拶、接待、受付、また自分が客になつた場合などの作法の練習もし三月、五月の節句、七夕祭、九月一日の万靈祭、觀菊會卒業生を送るの會、進級祝ひはクラブの年中の最大行事でその外に二宮祭と乃木祭とが催される。勤勞方面でもいろ／＼な施設があるが學校の傍系としてこれも全國おそらくは一番幼い子供達から成つてゐるであらうといはれてゐる「働かう會」といふ職業紹介所がある。

#### これは同校を一昨年卒

業して今はY専門學校の給仕をしてゐるK君（一七）が主となり、大人の力は一切借りずに同校卒業生の就職口を見つけ今年の五月からもう十名も就職させて鼻高々としてゐる、この働かう會員は求人申し込があると先方がどんな家であるかを餘暇に調査して選擇することは一般紹介所より嚴重でこの君のできたのは全くこの教育法の實である。

更らに暑中休暇の如きは直接社會の活動の中に働かせるのもよい生活體驗となるものである  
高等科の兒童の如きは實業社會即ち商店、會社の如きと交渉して、兒童の希望する職業方面の

實業について見習はしめる事も必要な施設である。

將來の學校は勿論のこと、現在の學校は必らず作業活動を産むところの環境としての設備を完備せねばならぬ。即ち兒童博物館、兒童圖書館、作業圖作業場動物飼育場といったことは極めて必要なるものである。農村の學校に、その土地の農家と同じ農場を持つて居らぬ學校ではその農村の教育は出来るわけがない。

また都會地の學校で生活を導く手工業場と購買部なり、販買實踐場なりがなくてどうしてその土地の教育が出来るであうか。

生産化の學習は價值的なる活動をなさしめることである。お役目に教師から課せられる學習ではない。

それかとして學習の請負でもない、即ち自ら學ばんとする發動的なる學習であり、然かも只だ活動のための活動ではなくて、より價値を求めての學習活動である。よりよくしたいといふ意識と、目的を認識し、計畫を有して活動に反省を伴ふところの學習活動が、生産化と作出化の學習活動である。

## 地方化の各教科教育

### 地方化は理想追求の生活

教育は地方の文化の姿に考へて、國民の向ふべき理想を追求する努力の生活を指導することである。地方の文化の姿に考へることは、直前に述べたことでも明らかなことである。即ちその地方の自然なり文化なりが持つてゐる精神に立脚して國民人を教育して行くのである。

美しき郷土地方に生活する者をして美の心に向はしめ、美しい世界への努力の生活をつづけしめる。經濟の郷土生活をする者をは、經濟に於ける働きの支配を體驗し、生産合理化への生活を指導する。歴史的、宗教的なる敬虔の土地に育む者をは神の常住し、自ら働き支配するその認識體驗をなさしめるのであり、皇室を中心として我祖先の創造した文化形態を體驗せしめ、その歩みを生活せしめるのである。清く整頓せられたる自然の大環境、さては心境に躍る精神的の文化と、尊き人の力からなる物質的の文化は眞實を求むる實際の生活を指導する。

## 修身の教育

修身に於ては全體的向上への働き、全目的に對する自覺なさしめる全精神の價値化である。然かも日常生活の實際指導にあるのである。その實際にあつては、教材の選擇には郷土の人物、歴史的な人物に求めること乃至は郷土人を生かして取材することを系統的にすることである。第二には家庭と地方環境の上に、注意と指導とを進めて行く方案を立てばねならぬ。かくて方法としては兒童の内心に交響せしめる。内心に觸れることによつて心情を陶冶し、知性に輝きを覺醒せしめ、實際の生活體驗をなさしめるのでなければならぬ。

修身學習指導の要は郷土に生れ、郷土に生活し、郷土の人となる國民人の養成指導である。かくて郷土人にして國民人なる生活全體の指導である。

## 讀方の教育

讀方の教育の向ふところは國語に習熟せしめること、國語教育としての人間性にふれしめることにある。これが又國語教育のねらひ所である。國語讀本の材料に見るならば修身的、歴史的、地理的、理科的、實業的、國民的、文學的の教材が含まれてゐる。この材料を最も深く國語に習熟せしめるところにねらひ所があるのである。

かくて國語事實を國民として理解、學習せしめる。かゝる場合の態度は國民としての學習であるが、國民としての學習であることの豫件として、その材料なりその材料の内在する生命の觀照に於ては地方郷土への連想に伴ふ實感の體認といふことが必要である。文章を構成する語なり句なりの意味の地方的理解によつて、味得を完全にし、内容を充實せしめることである。教材方面に於ては、ローカルカラーの十分なる文を補充として取扱ふことは極大切なことである。

### 算術の教育

兒童の生活環境に存在する數學的課題を解決して行くことによつて數的生活の深化と擴充を

圖かることが算術教育の目的とするところである。數學的課題の解決をする根柢は、數學的觀念、數學的知識、數學的能力、社會文化の諸常識等の觀念や能力を養ふことである。

かゝる意味に於ける數的生活の深化と擴充とはかるには教科書問題を生活化し事實化することが必要である。事實化するといふことは、地方郷土の事實問題たらしめるといふこと、類題を事實を捉へて作問作題せしめること、郷土の實際問題を捉へて教科書を生かし、これが聯絡を取り教材に結合せしめる等である。かくてこそ生活に出發し、生活と共に發展し、生活を向上せしめ、やがて數量生活の深化擴充となるのである。

### 各科の教育

彼の地理の教育が、その地方の自然とその自然の上に建造せられつゝある經濟方面なり藝術なり政治方面に基礎を持つこと、それと日本の地理と世界の實情とに發展せしめる學習であること、國史は國民文化を構成するところの郷土文化の學習は勿論のこと、郷土文化を機縁として歴史的意義を體認せしめること、やがて國民の歴史を學習せしめねばならぬのである。

# 勞作業の教育

## 勞働の教育

理科は如何に教育するか。先づ教材の整理が必要である、教材を地方的に系統化することが必要である。地方的なる教材を取ること、教材相互の關聯を十分にすること、組織化することである材料の純なる形態を再現して居るものを選択し明瞭なる形態に於て働きつゝあるものを直觀せしめること、自力的なる自由の研究によらしめること、發生的なる立場に於て學習せしめること等が指導の着眼である。

其他の家事、農業、商業、工業、水産、圖畫何れの教科に於ても生活體驗を重視せる細目を作成し、學習と實習とを地方的、實際的ならしめることが目標とするところである。細目は精細なる實地調査研究の上に立てねばならぬ。

## 求むる勞作々業の教育 勞働の教育

求むるところの勞作々業の教育とは別の言葉でいふならば勞働の教育である。

勞働の教育は作業を方法とする教育のことで、知識を興へることを主目的とする教育に反するものである。

かゝる教育に於ては作業的精神に基づく作業的學習を重視すべきは勿論、共同作業によつて作業團體に結合せられることを希求する。そして目的を有し價値を創造する全部の力を活動せしめる様に陶冶する。

要するに價値の世界に誘導すると共に價值的訓練を目的とするところに行動と實演とを方法とするのである。

## 奉仕作業と生産作業

### 作業科特設の要諦

知識を興へることを主上とする教育から勞作々業を主上とする教育への時が來た。かうした教育をする學校には、その教科の中に作業科又は勞働科なるものを特設せらるべきである。

特設せられる作業科の中で、奉仕作業と生産作業とは大きなものゝ二つであると思ふ。彼の圖書館の作業とか講堂の整頓作業とか、作業園の作業、動物飼育、植物保護培育の様なことは校内で行はれることである。校外で行はれることゝは、道路愛護の作業、交通整理、交通調査の如き皆社會奉仕の作業がそれである。

學習用具を製作し、修繕し共同具の製作をなす。藝術玩具の製作、裁縫作業と云つた作業は生産作業といふべきものである。更らに進んでは全くの市場で販賣しつゝあるものゝ製作の如き、農場の經營、林野への植林等は皆生産作業である。



かうした作業は個人的なる目的々活動を補つて協同の精神を養ふ重要なものである。私からすれば農村の學校が、例へ尋常小學校でも農場とか山林の經營をしてゐないことが不思議でならない。又兒童の一人が、學校全體の一部である一本の樹木の保護なり、一鉢の花の培育なり、小動物の飼養なりの任にあつて居らない位、個人としては勿論のこと人間の教育方法として淋しいことはないと思はれるのである。

尙ほ共同作業といふ方面から見れば、遠足會の如き、陳列裝飾のことから、誕生日、記念日の各催しといつたことも作業であるが、これは奉仕作業の中に含ましめて考へられることである。吾々は金がないからといつたり、設備が不完全であるからといつて、從來からのそのまゝの教育を施しては居られない時が來たのである。實際教育家の再考を促したいものである。

## 實業見習の機會 社會文化形態との交渉

いふまでもなく作業を産む環境としての設備の完備も必要である。自然的にも活動の機會は與へられるし、指導の實際にも便利である。しかし如何に設備が學校内に完備したからとしても、それは直接社會の文化活動の中に働かせるに及ばないこともある。例へば實業についての生活體驗についての如きがそれである。

そこで高等科の兒童の如きには、暑中休暇の期間等を利用して、實業社會即ち商店、會社の如きと交渉關係をとつて、兒童が希望する職業方面の實業を見習はしめることは必要なことである。

かゝる施設をなしたる時は受持教師も隨時見習場所商店等を訪問して、この實際について理解し、且つは精神的方面についての指導——努力、勤勉、正直、責任、さては慰安といつた方面について指導してやることは更らに効果を増すものである。

即ち著者の實施したる經驗からしてかうした施設が、それ等の會社商店よりの勤勞狀況の報告あり、實習者の手記等について見て如何にも効果の大なるものを收め得たことを報告しておく次第である。

## 職業指導と就職指導

### 労働の教育に関心せしめよ

私のいふ職業指導とは職業的なる指導をすることであつて、廣義には職業指導期の生活指導を意味し、狹義には特別な職業的の指導案内を意味してゐるのである。就職指導は兒童の職業選擇から就職に至る適材を適所に置かんとする指導をいふのである。私の労働の教育は當然職業の指導に関心し、就職指導に接続せねばならぬのである。

職業指導期は個性態度の傾向附けられて來る時期即ち高等科の時代であつて、所謂個性的指導時期に即する生活時期である。個性的態度の傾向附けられない以上は職業指導は問題にならないのであつて、個性的指導期は即ち職業指導期であることになる。かくる以上は個性教育は職業指導にもなることは必然なることである。かく考へし時就職指導は職業指導に接続するものであり、職業指導は全く教育の本旨に包含せられるものであるといふことになる。或る商賣

に要する書方や算法について授けたり、新しい仕事を修めるための補導とか、小學校に於ける職業指導期の教育ではない、一般の教育を進める指導の中に職業的機会を指導して行くことである。

一般教育の中に職業的機会を指導して行く方法に如何なる事項があるか。第一は兒童個性を研究することによつて、個性的指導をして行くことである。第二には實業教科の生活指導（教授と實習）に於て有効なる陶冶をなすことである。第三には自治會或は學級に於ける行事に於て指導施設をすることであり、第四には實業的な知見を啓發するための見學、實習の施設をすることである。

第一の個性的の指導については個性教育の徹底のところ述べたことが直ちに考へられる。只だ吾々は個性的の取扱は更らに各自の自己態度やがて長所短所を覺らしめることは、社會の要求する生活分化に合致して多様な要求に有用なる活動をなすこととなるものである。勿論各自がこの職業に適するや否やを限定的に自覺する程度に於て、あつて、職業學校の目的置き所に於ての指導とは異なつてゐるのである。

第二の實業教科に於ける生活陶冶に於ては、先づ現在の實業教科の時間内に於て、職業に關する生活的の陶冶をなすことである。即ち職業に關する調査報告材料を蒐集し整理して、之れを教材とし直接指導教材としたり、又は兒童圖書館に備付けて見聞せしめることや、職業的知識職業分析等職業的知見の陶冶をいふのである。

尙ほ各教科の教材中職業關係材料の取扱に於て、一層の興味を以て之が理解に努める様指導するは勿論のこと、實業科目の選擇に於ても、郷土的、地方的なる實業との關係に立つはいふまでもない。その指導に於て職業との連絡によつて職業を知る上に資せねばならぬ。更らに注意を要するは、郷土的實業の全般との價值關聯を重視して、教材の配當から其の知見と實習とを指導して行く様にせねばならぬのである。

次いで學校には生活の綜合的理解をなさしめる機會を欲しい。即ち實業的なる機關の名稱、及びこの活動の實際の見學をなさしめる等の組織的なる機會を設けることである。

以上の如く個性の調査が出来て居り、職業の分析と職業の全體的理解が出来て居り、職業的指導が行はれて居る以上は、それに續いては、他の求人機關との連絡をとらねばならぬ。即ち

職業關係者に接する様にし、その内容と意見、狀況等を聴取したりして連絡につとめる、職業紹介所等の調査を蒐集し、所員との連絡をとることに怠らぬこと等が必要である。

父兄との間には卒業期には特に連絡をとることが必要である。職業關係の材料の蒐集、整理と利用とに努め、親切を以て事に當り、眞に相談相手となり得る様に努めなければならぬのである。かうした目的徹底のためには學校に職業指導係を置いてこれに専務せしめるがよい。尙ほ校長も受時教師もどしどし出て行つて交渉の活動をなすことに専念する様でなければ、うまくいわけには行かない。

一體に職業指導とか就職指導とかいふことは根氣仕事である。校長も訓導に任せてあるから位のことではよい結果をあげては行かない。校長が先頭に立たねば訓導の意氣もあがらない。私は商工實務學校といふ所謂工手學校をも經營してゐる。その卒業生の就職についても奔走してやる。市内某々工場を訪問して、東北は秋田の工業學校長が、卒業生の就職のためと、卒業後の指導を目的として、全國の工業都市を旅行して居られるのにブツツかつたのであるが、その熱心さに感心させられたものである。これではなくては駄目だと思ふ。

## 個性教育の徹底

---

かくてこそ訓導も力が入る。親切さも増して来るし同情も高まる。第一熱がある電話位の交渉や、一回二回位の手數で行くものではない。その意氣がなくて何うして夏季休暇あたりに實業見習をさせて置いて、そこを巡回して精神指導をする熱が起らうか、更らに卒業後の實務についてからの指導が出来やうか。やつぱり最後は力と熱とである。

自分の學校の卒業生がバタ／＼かたついて行く位愉快なことはない。上級學校に入學が決定する、就職は確定する、一人残らず家庭にブラ／＼者のないといった位愉快なことはないものである。

## 個性研究の展開〔一〕 何處まで展開してゐるか

個性の教育についての問題は可なり眞剣に考へさせられる。他人の子供と考へられない我が教へ子について、頭をいためずには居られない。學問さへさせれば否學校へさへ通學させればそれで伶俐になると考へをきめる常識にのみ止められない。何れもの子供が學問さへしたからとて、必らずしも伶俐となつたり、それが幸福となつたりするとは限らない。中には學問が仇となるものもあり、餘計な心配と苦痛をなすに至つたり、或は學問のさせ方の誤りが悪事の生活に導いたりすることもあるのである。

かく考へる時、我々は何とかして、彼等の持つ性能を十分伸展せしめてやりたい、生活から見ても、子供自身に無理なき生活を展開させてやりたいことを念願する者である。こゝに頭を日夜いためずには居られない。性能の發揮と生活の展開とを學校に於ての自由活動の中に現は

させること、それから社會的生活への連絡とこれが指導とを研究するに至つたのである。自由活動の中に現はさせるとは、學校社會生活としての生活を生活させることであり、個性の自然にして十分なる活動をなさせることである。社會的生活への連絡と指導とは、彼等が卒業して職業といふ必然的につきまとうところの社會的生活を生活せしめる橋懸けである。即ちそれを職業選擇乃至指導或は職業紹介として考究に考究すべき問題である。

個性の自然にして十分なる生活を生活せしめる個性の教育、ひいては社會的生活(職業)への指導の第一歩は個性の調査に始まるのである。正しい個性の見方の上に始まるのである。正しい誤りなき即ち眞の姿こそ教育と指導の第一礎石である。然らば現在かうした個性の研究は何の程度まで進んで居るであらうか。

心理學に於ける個性の見方については最近時に於て大體二つの立場をとるものが、新傾向として擧げ得るのである。即ち其の一は自然科学的實驗心理學に基づくものがあり。其の二は精神科學的心理學に基づくものである。其一の自然科学的心理學の立場に於ての研究は英、佛、獨、米何れの國にも發達してゐるものであるが、精神科學的心理學の立場に於ての研究は、獨

逸を中心として起つたものである。

自然科学的心理學といふのは精神科學の問題を自然科学的方法によつて解決せんとするものであつて、主として物理學、天文學、生理學等の實驗的方法に基づいて精神を研究するものである。同じく現代心理學の潮流を支配せんとする趨勢にあるのが精神科學的心理學である。この精神科學的心理學に四派がある。即ち一はデイルタイを中心とするものであり、二はプレントノーを中心とし、三はコヘン、ナトルプによる學派であり、四はウエルトハイマーによつて主張せられる形態學說・形態心理學なるものである。是等の四學派は、研究の對象及び其の研究方法に於て多少の特色存するも精神科學的心理學を建設せんとすることに於ては同じであるから、これを一括して述べたのである。

自然科学的心理學はその基礎、根柢とするところは、即ち第一には一切の精神を單一感覺及び單一感情の如き假想的要素から構成したること、第二には要素の結合を物質界に行はれるものと同一の機械的法則によつて説明せんとしたこと、第三にはその研究方法は主として自然科学的精神に則り、内的觀察よりも客觀的方法を重じたること、第四には精神の解釋を物質的の

方向に導いたことである。従て具體的精神を示すには餘りに十分であるとはいはれないのである。

精神科學的心理學は精神を要素の寄木細工の如くに考へずに、精神を全一體と見做して、その特色を明らかにせんと努力する。そして個々の要素の特性も、この全一體の特性を基礎に一層深く理會せんとするものである。

かうした以上二つの立場に於ける見方について次に述べようと思ふのである。

## 個性研究の展開〔二〕

### 自然科学的見方と精神科學的見方

同じく自然科学的な立場からの見解をとつてゐる個性の見方にも大體に於て二方向がある。即ちその一は要素的分析的な見地からの個性の特異性を見るものであり、その二は個性を全體的に考察することの必要を力説するものである。

第一の要素的に見るものは、知能が多くの人々に差別付けられてあること、分配付けられてあること等を個人的差異的に明瞭にしやうといふのである。又能の二つ以上の特質が如何なる相関をしてゐるのかの關係を研究するものもある。リツプマンはかく諸特質や標徴を對象として研究するところから差異的心理學といひ、個人全體を研究の對象とする個性心理學と區別しやうとしたが、個人その物が諸特質の所有者である限り、個人と個人の有する諸特質とは全然切りはなし得ない。切りはなすことは科學が研究に於ても不可能なことである。

以上の様な個人差の研究に於てはピアスン等の研究になる蓋然法則によつて量的測定的に研究する様になつてゐるパトリツヂはこれを脱逸的研究法と言つてゐるが、近來盛んに研究せられて來た智能検査乃至教育測定等ほかゝる意味の個人差心理學の發展である。いふところの個人差とは、多くの人々の特質を測定した結果個人間に共通な一般的傾向、標準を設定し、この標準から個々の人々の特質が、どの位脱逸してゐるのかを數量的に現はしたものである。要するに抽象的、分析的になされる個々の特質の研究からはその個々の特質を歸納的に綜合し、一個人の全體的特性を再構成して、個性を明瞭にしやうとするものではない。却てかゝること

は理論上不可能であるとするものであるから、所謂分析的なる立場にあるものである。

第二の個性の全體的な見方をするもので自然科学的立場にあるものがある。パトリツヂ等は全體的考察の必要を力説してゐる。即ち個體は複雑なるものであるから、要素に分析し、各個體の特異性を測定して個體の位置を定めるが、それでは完全に叙述説明することゝては出來ない。これ個人は渾一、全一體であつて、差異の單なる集合ではないからである。即ち分析によつては全體としての個人の特性の全體としては評價し得ないからである。それ故に個性は全體的に考察せねばならぬといふのである。そしてその方法としては觀察、洞察等によるのである。次に部分と全體との相互依存の關係を考へて、個人差の分析的研究と共に個性の全體的研究の必要を力説するものにウイリヤム・シュテルンがある。即ち個人の有意義的なる行動とか目的とかを考慮しながら個人を不可分的の全體として知ることの研究をするものであつて、説明的乃至記述的心理學の立場である。

かゝる立場に於ては、多様な特質、標徴の統一態が個性じあるとする。即ち全體として各個人を區別するところの個人全體の特殊性であり、この個人は多様な特質標徴を有するもので

ある。かくて多様な特質は人格的統一と目的關係に於て理解されねばならぬ。従て人格的なものを心理的研究によつて研究理解する。即ち最初から構造の理解を行ひ、個人の生活に於ける統一的目的の生活に關係させて、そして本質的のものゝ然らざるものとを區別して研究するのであつて、廣義の差異的心理學的研究法である。要するに個性の眞なる理解に於て、全體が個性であり、部分が個性の特殊の方面に表はれた標徴であるとして全體と部分とを相互依存の關係によつて取扱ふのである。

一體個性は多様な特質標徴を含む統一態であつて、然かも独自の全體性であると解すべきである。そして價值との關係に於て發展しつゝある人格の個性的統一を現はしてゐるのであるかくて独自の全體性がそして統一性が個性であることを、第一念頭に置いて考察して行かねばならぬのである。そして全體を構造する部分たる多様な標徴を忘れてはならないのである。即ち全體の形態性に注意を置くこと、それを構造する多様に注意することを忘れてはならぬ。

第一の立場に於ける要素的、分析的に見るものは、個々の特質の脱逸してゐるところの別々なる個人差の研究であつて、象の全體を見ずに、部分的なものゝ數量の計量になり易いことである。

ある。全體が明らかになつて、而かも計量する部分的のものが全體を代表するに充分なるものでなければその個入差研究は價值がないのである。決して單獨にして孤立的なる要素の研究ではならない。そこへ行くと第二の立場は形態性全體性への部分の研究であるから誤りが起ることが少ない。然るに或る代表的なる部分を理解して全體を知らうとするには象の一局部を捕へて象の全體と考へた群盲の群にならぬことこそ大切なことである。

同じく自然科学的な立場に於て全體的に見るものであると思ふものゝ中に類型として見るものがある。この類型といふことは近來その研究が展開せられて來たところの調査方法である。類似度の近い個性を集めて一團にするそしてその一團は各々別々の傾向を示すので、各この型に分類して表はすのである。従來は智能の質的個人差のそれに類型といつたのである。さて従來からは、その型は量的の差ではなくて質的の差を表はすものであつたのが、今日はいかゝる一團を量的に表はさうとして來たことが、やつぱり展開したことである。

型には種類が多い。人によつても分け方が異つて居る。エーリヒ・シュテルンは發生的に眺めて知覺範疇と稱して事物(個物)期、活動期、性質期、關係期、情趣期等に分けて居るが、



これは近頃になつて絶對的の發達段階ではないといふ様に考へられる様になつた。

ピネーは列記標式、觀察標式、情緒標式、博識標式等の型を認めてゐる。普通に行はれてゐる質的個人差の分類としては、視覺型、聽覺型、觸覺型、混合型、運動型等がある。松本亦太郎博士は想像と推理の型とをあげ、更らに二つづゝに分けて居る。即ち

- 想像
  - 所動(直觀)……………(1)
  - 能動(構成)……………(2)
- 推理
  - 歸納……………(3)
  - 演繹……………(4)

右の素質分類から(1)と(3)の結合は觀察材能型であつて、詩人、藝術家、心理學者、實際家であり、(2)と(3)の結合した發明材能型は、發明家、婦人藝術家、技術家であり、(1)と(4)との結合したるものは思索型であつて、物理學者、心理學者等である。(2)と(4)との結合したるものは思索型であつて哲學者、數學者等である。

近時かうした類型方面の研究が、とみに開拓せられるに至つたことである。その一二をこゝ

に述べて見るならば、イエンシュ教授の直觀像の研究、クレツチヌメルの回歸性及乖離性素質型の研究、スプランガー一派の價值的見地からの類型の研究、日本於ては古川學士及同民法による石川學士の新研究内田文學士等の素質の實驗類型の研究、田島體驗學校の形式的個性類型の研究等は面白いものである。

次に精神科學的の立場に於ての全體的の把握による研究としては、スプランガー一派の研究である。スプランガーは純理論的に六つの個性類型をあげてゐる。即ち理論人、經濟人、審美人、宗教人、社會人、政治人である。價值的の立場に於ての類型の見方をなしてゐるものであることは云ふまでもない。價值的の立場に於てといふのは、あるがまゝの個性を考へずに、即ちあるがまゝの經驗的立場からの個性の調査、經驗的方法によつて個性を洞見するに止まらずして、個性を價值的に考へる、必らず理想とする個性を考へる。個性を價值的に洞見する。それを理想の個性に純化する指導への近接を考へるのである。要するにかゝる類型は一般的なる生活型式描寫の試みであり、價值に向ふ特殊の心的傾向を現はしたもので、天與の素質が文化を理解し構成して、人格的生活へ進展して行く根本的なる差異について言つたものである。

具象的精神生活を何等かの意味に於て形態づけられ、構造づけられてゐると考へ、それが全體性、一體性、構造性、複合性の經驗的研究をするものは形態心理學であり、かゝる心理學的立場に於て個性を記すものは、心理態度に於て中心となる傾向によつて構造構成せられたる全一的にして發展的なる關聯體を個性の形態であるとするのである。そして特殊の形態であつて共に普遍的價值に向へる形態であることから、意味づけによつて次第に價值的なる態度へと進展する。そこに教育の分野があるのである。

## 個性研究の新潮 類型心理學的研究

前述した様に近時個性の類型的見方の研究なるものが一層展開せられて來たのである。従來は只だ型なるものは精神的素質を見る。即ち個人差を質的に見る場合に言つたものであつたが近時は類似度の近い個性を集めて、その群の持つ傾向を示すことの研究が進められて來たので

ある。

一體かうした類型の表示は體質に心的機能に、或は文化に種々なる方面に於て行はれつゝある。勿論ある現象を一般的なる相に於て觀察し、それを敘述理明することは必要なることではあるが、又それと同時に差別相を、即ちその差別の持つ傾向性を把握することも大切である。この傾向性を型に分類して表現するのであるが、この型は質的の差を表はしてゐるものではないが、傾向を見るときふことからすれば、それは量的の表示となるのである。

かうした差別相に於て特異性を把握することは教育といふことの中に於てあらはされて行く即ち型を把握することによつて、直ちにそれを教育して行くことが出来るものである。そして型それ自らは發展を意味してゐる、又型それ自らは人間の現實的な特性を意味してゐる、發展と現實なる特性とは教育に關心する即ち教育に關心が置かれ易いのである。關心がおかれ易いことは型としての個性の見方が教育の現實の指導に便利であることを意味することにもなる。

先づ教育的方面にその原理をあたへ、教育活動への關心をあたへる即ち方法上の意味を有す

るものは、學說としてのアイデイク即ち直觀像の説であらうと思ふ。勿論アイデイクそれ自身は知覺上の一現象の問題ではあるが、その研究はたゞそれが研究には止らないで、類型の研究として教育的方面に原理と方法とをあたへるものである。

アイデイクの研究を創始したるものは言ふまでもなくイエンシュである。イエンシュによれば方法として形式的機能の型を見出す、型は特質であるからこの特質に教育は立つこととなるそれが教育的なるものである。即ち型によつて教師と児童との交渉の仕方とか、指導の方法とかが先づ原始的に規定せられることになる。しかし型は内容的なるものではない、發展し、發達し外界と關係して行く方向の規定者として與へられてゐるにすぎないのである。

直觀像を有する兒童は表象と知覺とが未だ明瞭に分解せられて居る状態に達してゐないといふことを意味してゐるのであつて、所調直觀的であるのである。この直觀的なる形態を生かすことこそ正しき教育であることになる。直觀像を有するものをアイデチケルと云ひ二つの型を認めたのである。眼は大きく輝き顔は晴やかに快活にして且つ想像は動搖せずして冷靜なるものをB型といひ、眼は小さく輝きもなく顔全體に晴れやかさなく憂鬱にして殘像の常に動

搖し興奮し続けるものをI型と云ふ。この二つの型は現實に於て嚴然と對立することは少なく多少交錯してゐるところがある。アイデイクは方法論上純粹なる型を立て本質の構造を明らかにするもので教育には原理的の指導を與へるものである。教育の指導に於ては、この純粹の型を個性に於て發見し、生命の力を與へるのである。生命の力を與へるとは直觀力を強めることであつて、抽象的なる思推と内容との蓄積ではない、對象に對する力強い志向力を養ふことである。

クレツチメルの氣質の型は、今日多くの認容を受けてゐる型である。即ちその型とは回歸性と乖離性との二類である。

### 回歸性氣質

1. 社交的、溫良、親しみ深い、氣立がよい、
2. 爽快、諧謔的、活氣がある、熱し易い、
3. 靜肅、落つき、鄭重、柔和、

### 乖離性氣質

1. 非社交性、寡黙、控へ勝ち、眞摯、畸人、
2. 小心、引込思案、細微感、敏感、神經質的、激昂、自然及び書物の友、
3. 御し易い、お人よし、健氣、平氣、鈍感愚鈍、

かゝる類型は素質の類型を研究する方法としての分類であるから、教育的には實驗的方法を素質類型の分類に試みたものであるが、前述したる内田學士等の研究も、實驗的方法によつて素質類型の分類をなしたのである。同學士の研究によれば第一群と第二群との素質型の徵候群となし、前群を第一型、後群を第二型とした。第一型はクレツチュメルの回歸性素質型に第二型は乖離性素質型に一致するものと思はれるのである。次ぎにかゝる兩型の素質類型を實生活との關係の上に引用して見ることにする。

**第一型** 團體競技に秀でてゐる、歴史、作文に長ずる、綜合的なる能力を表はす、全體的の敘述に長ずる。

**第二型** マラソンに長ずる。數學に長ずる、部分から全體への考察能力を表はす、細分的敘述をなす。

以上アイデイクを除いた、クレツチュメルの氣質型、内田學士等の實驗類型は未だ教育的なる立場まで導かれてゐると思はれない。ところが著者の經營しつゝある日本島體験學校に於ける研究は、教育に關心を置いて現行なる特質と發展とを意味する型の把握をなすことから更に進めて直接的なる指導の方法を研究してゐる。こゝに至つて眞の個性教育なるものが建設せられたと云ひ得ると思ふ。

## 徹底的なる個性教育

### 眞の個性教育はかくある

私はいよく徹底したる個性の教育について述べることになつた。餘りに道程、序論に多くを費したのであるが、私の個性教育の建設を明瞭ならしめるためにはこれまた止むを得なかつたのである。

私の個性教育については二段に分けて述べることにする。即ち第一段は個性の調査であり、

第二段は個性の教育についてある。個性の調査は更らに二つに考へられる。一は形式的なる個性時代であり、他は價值的個性時代である。

先づ私は個性についてこう考へる。

個性についてはあるがまゝの個性、經驗的の立場、分析的なまゝの個性の見方をしない。理想とする個性を考へる。現實のある個性が價值との關係をもつて發展する個性を考へるものである。従て價值の上に向けられ價值受容なり價值實現なりの活動の姿に於て、比較的形式的なる心意活動の時代を形式的個性の時代とし比較的價值追求の個性的活動の傾向が著しくなつて來る時代を價值的個性の時代とする。

形式的なる活動を思索性と活動性の二つに類型づける。

この二大根基の上に思索的にして活動的なる融合性を凝視する。この何れにも屬さない性類型がある。これは型式不定なるものである。思索性にB、活動性にC、融合性にA、不定性にDの符號を以て代用しておくこととする。次ぎに一般生活に現はれる特徴と一般學習及び教科學習に現はれる特徴とを表示する。

### A、一般生活及學習に現はれる特徴

|   |   |  |
|---|---|--|
|   | 一般生活に現はるゝ特徴                                     | 一般學習生活に現はるゝ特徴                              |
| 融 | 一、思考明敏適確<br>二、動作活潑勤勉力行<br>三、知情意圓滿               | 一、學習深刻<br>二、注意持續<br>三、發表正確                 |
| 合 | 四、創作的自發活動の人<br>五、理論技術共に長ず                       | 四、各科成績概して優良<br>五、活動的                       |
| 思 | 一、沈思默考思考正確<br>二、統一ある思想及行動<br>三、理智的にして情意行動を缺く事あり | 一、學習深刻<br>二、注意持續<br>三、發表的ならず<br>四、理論的學科に秀ず |
| 索 |   |  |

| 型              | 活 動 型   | 不 定 型  |
|----------------|---|--|
| 四、技術一般に拙劣しかも着實 | 一、冗辯にして活動家<br>二、機械的記憶に長ず<br>三、創作的態度を缺き模倣的<br>四、現實的實際家 | 一、思考淺薄<br>二、動作不活潑<br>三、思想行動單純<br>四、受動的にして進取的ならず              |
| 五、成績優等         | 一、學習表面的<br>二、注意散漫<br>三、發表を好む<br>四、活動的機智的<br>五、學科成績中位  | 一、學習淺薄<br>二、注意散漫<br>三、發表拙劣<br>四、鈍重にあらずんば輕忽<br>五、學科成績不良なるもの多し |

**B、教科學習に現はれる特徴**

| 融 合 型   | 思 索 型  |
|---|--|
| 讀方學習に現はるゝ特徴<br>一、讀振に誤讀なく語句に注意内容を省みつゝ深みある讀方をする<br>二、統覺力文意節及語句の意を全體的によく把へる<br>三、一分間音讀字數約二百七十字内外 | 讀方學習に現はるゝ特徴<br>一、讀振 誤りなく緩徐に深みある讀方をする但し流暢ならずして澁滯する<br>二、統覺力明敏なれども往々文を理智的に見る |
| 綴方學習に現はるゝ特徴<br>一、着想構想何れも可にして速<br>二、叙述表現巧にして情理兼備の文をかく<br>三、良き底光りする文<br>四、長篇短篇自在<br>綴字量五百字乃至七百字 | 綴方學習に現はるゝ特徴<br>一、着想構想可なれども容易に満足せず容易に筆を下さない<br>二、思想よく統一し文が引締つて居る            |
| 算術學習に現はるゝ特徴<br>一、計算(活動)と思考とが直覺的に一致して働く<br>二、計算思考共に正確敏速  | 算術學習に現はるゝ特徴<br>一、思考正確なれども計算は遅い<br>二、思考は常に計算に先行する                           |

| 型                                      | 活  | 動   | 不  | 定  |
|--|--|---|--|--|
| 三、一分間音讀字數<br>約二百五十字内外                  | 一、讀振 表面的流暢に花々しく讀む但し誤讀脱讀多く内容を省みる違なし<br>二、統覺力明敏を缺き部分的な把握理解となる<br>三、一分間音讀字數<br>約三百字以内 | 一、達筆長文にして文に締りが無い<br>二、思想不統一にして矛盾混亂ある文<br>筆を下し書き了り提出速かなり<br>三、誤字語法の誤り多し<br>四、綴字量七千字乃至八千字 | 一、讀振 語をたどりつゝ表面的に讀む 誤讀滯多し<br>二、思想混亂不統一の文<br>三、誤字脱字語法の誤り多し | 二、統覺力遲鈍にして文の理<br>三、誤字脱字語法の誤り多し<br>三、誤字脱字語法の誤り多し        |
| 三、文字正確句讀點正<br>四、深みある文<br>五、綴字量三百字乃至五百字 | 一、計算速かなれども誤り多し<br>二、應用問題の解決遅し<br>三、題意を違へて考へる事がある<br>四、身體運動を伴ひながら計算し思考する            | 一、思考計算何れも遅い<br>二、實物を與へなければ思考計算共に不正確なり<br>三、具體的に説明しなければ                                  | 一、容易に筆を下さず呆然たり<br>二、思想混亂不統一の文<br>三、誤字脱字語法の誤り多し           | 一、思考計算何れも遅い<br>二、實物を與へなければ思考計算共に不正確なり<br>三、具體的に説明しなければ |

わからない

| 型                     | 解不充分 | 四、筆路滯滞中途擱筆多し | 五、綴字量二百字乃至三百字 |
|-----------------------|------|--------------|---------------|
| 三、一分間音讀字數<br>約二百二十字内外 |      |              |               |

心意活動の形式的なる指向の作用から價値の方向に對して作用する指向性へと發展するに至るものである。形式的なる指向性活動とても文化價値を實現して行く形式的の活動であり、やがて性傾向の内容性の發展となり、價値的なる態度となるものである。かかる型式が價値的個性である。

價値的なる認識による個性を學問型、社會型、藝術型、宗教型、權力型、經濟型の六種とする。彼の形式的個性の四類型に屬する個性と所有者は、この固有の色彩を有すると共に、各々この六種の價値を追求して、各自特殊の個性色を有する精神構造を形成するに至るものであることは言ふまでもない、かくて六種の各々に四種の各々が色着けられて結局は、廿四種の形式的實質的の價値的個性が所謂形式としては考へられるのである。

要するに個性の發展に於ける個性は、時には形式的、一時的のものが多く現はれ、それが次第に、永続的、定着性なるものとなるのである。かくて次第に本質的となり、やがて精神的生活を生活するのである。次に一般的生活と學習生活とに現はれる特徴とを掲げることとする。

| 式型  | 特徴と環境  |
|-----|--|
| 學問型 | 一般生活に現はるゝ特徴<br>一、物を理論的に見事物の關係を系統立てる<br>二、法則關係の追求をなし經驗を客觀的理論に整理する |
| 問型  | 學習生活に現はるゝ特徴<br>一、豫習復習をよくする<br>二、自究的研究的態度模範的である<br>三、盛んに質問し議論する   |

| 社會型   | 藝術型  |
|---|--|
| 社會型<br>一、他人の爲社會の爲を標準として活動する<br>二、愛を他人に移して活動し努力する                  | 藝術型<br>一、美的判斷及其標準によつて行動する 直觀的氣分的<br>二、生活を藝術的に組織統一する                |
| 社會型<br>一、眞面目に學習し成績がよい<br>二、少々元氣がない<br>三、道徳的な話を好む<br>四、私事をすてゝ人につくす | 藝術型<br>一、音樂綴方圖畫等の藝術教科を好む<br>二、雜誌單行本殊に文學的なものをよく讀む<br>三、言語動作があかぬけてゐる |



| 宗 教 型  | 力 權 (治政) 型  |
|--|---|
| 一、人生の諸相に水遠と絶對とを證め其の永遠を求め絶對を渴仰する<br>二、眞面目にして敬虔の念に富み感激的である | 一、權力を中心とし勢力の外面表現を求め<br>二、經濟を手段とし彈性的實行的活動的である<br>三、行爲意志中心 知と情は方便     |
| 一、道德的宗教的な話を好む<br>二、眞面目に信する所まで究める<br>三、自然美を好む             | 一、俠客及英雄の話を好む<br>二、綴方は論文書方は大字を好み放膽である<br>三、餓鬼大將親分氣分濃厚<br>四、頭はない方が長ずる |

| 經 濟 型   |
|---|
| 一、實利實益を凡ての生活の標準とする<br>二、貯蓄利用節約を尙び生活の技術的經濟的實行的なるをよろこぶ                  |
| 一、よく時間を惜み(利害的打算から)餘裕の書間をつくらぬ<br>二、打算上利益なき勤勞をせぬ<br>三、學用品を經濟的に使ひ大切に保存する |

個性伸展への方法は如何にするか、第一には、型を把握することである。型を把握することそれは差別相に於て特異性を把握することであつて、それが教育に即くことになるからである即ちその把握は教育に關心が置かれてなされるからである。それ故先づ第一に型の把握こそ大切なることである。

第二には個性に活動の自由を興へることである。即ち活動の機會をより多く興へることである

る。より多く興へられることによつて個性は伸展するものであるからである。かうしたことから、児童の學習に於ては正課外に自由研究會合等の施設をなすことがよい。この好む方面の研究部會合を設けるものもよいのである。

第三には目的價值に向けられたる活動を獎勵し、且つはさうした活動への生動を指導することが必要である。かゝる活動の指導獎勵にあつては、先づ自らの題材の選擇、目的の確立、計畫の立案、實演活動するといった處に方法がある。かゝる活動は慣行せられて結果に到達するまでの指導が必要である。かくてこそ活動の本質は體得せられて第二段の價值活動を刺戟誘引し、やがてこゝに個性活動は益々現はれ行はれることとなるものである。

第四には學習上に現はれる所謂學習個性なるものを了解することが第一の如くに必要である。學習個性とは學習の上に現はれる中心態度のことである。自然科学に於ける學習の中心態度、精神科學に於ける學習の中心態度、技能教科に於ける學習の中心態度を考定するのである。そしてこの學習個性に適する取扱指導をすることは必要なることである。かくて指導の對象が明瞭になつて、個性指導は行届くことになる。かの發表も牧得も、整理も根本的に徹底的に行は

れる。

第五には児童の短所長所の教科とを指導することで、決して一方づいて偏する指導をしてはならない。何れをも考慮しての指導でなければならない。こゝに一般的なる教化時の提供と普遍的なる機會を興へることの必要も考へられる。勿論かうしたことは普通教育時代に於て考へねばならぬことである。

以上述べ來たつたところで、餘りに本論に於て短つた様な感もするが、大體に於て私の個性教育なるものゝ筋道を述べた様な氣もする。クレツチメルの氣質型と吾々の研究とに相通する點の多數なるを思ふものであるから、その關係についての研究を進めて居る。内田文學士は思索型は乖離性氣質に、活動型は回歸性氣質に相通して居るといつてゐる。融合型は二つの發展したものであるが何れかに屬せしめ得るかも知れぬ。不定型は表出不明瞭なるものと、素質低級なるものを内含してゐるといふ。

クレツチメルとの關係に於て見るとき思索型は乖離性に、活動型は回歸性に相通して居る氣質の多いことに着眼するものである。融合型が思索型、活動型の何れかなる生活から發展し

## 公 民 的 教 育

---

たるものなる以上は、兩型の何れかに關係づけて見られるのは當然であると思ふ。思索型、活動型を極端に進めて行くときやがて動きのとれない性になる、それが融合したる状態に發展するとき、人間教育が徹底したることになる。

不定型には表現不明瞭なるものと素質低級なるものをも内含するのであるから、教育と環境の整理の仕方によつて、明るき然かも力まる個性の發展となるものである。個性教育の重要な痛感さられる幾多の例がある。クレツチメルの研究が一九二二年に發表せられたとか、吾々の研究が一九二三年に確信を得たる等甚だ愉快に絶えぬことである。

## 公民的生活の指導

### かくあるべき實際

公民とは「公生活の一員」といふ意味で、言ひ換へれば、「社會公共の生活團體の一員」といふ程の意味である。

此の公生活は廣義に解すれば國家生活となり、狹義に解すれば市町村生活となる。之れに一員といふ意味を持たしむれば、前者は國家の一員即ち國民たることとなり、後者は市町村民となる譯であるが。しかし、この一員といふことは只無條件にはない。只單に國の領土の中に生息して居るといふ様なることだけでは牛馬と何等選ぶとかるがない。公民たると否とを決定する實質的條件としては、先ず公民としての權利義務を行ひ得る立場が與へられて居るかどうかといふ點に求めなければならぬ。然しながら其の與へられたる立場も、これに相當する所の能力なしには、空虚なる者に外ならないとするならば、究竟するところは、結局公民としての

教育の問題に歸着する。

けれども私が此處にいふ公民的生活の指導とは權利義務の問題のみではない。又選舉權の問題のみでもない。市町村、家族等の社會にも、國家といふ社會にも、或は世界人類といふ社會にも總べて廣く通ずる善良なる一員といふ意味である。即ち此處にいふ公民とは一種の道德的  
理念であつて一切の社會關係に於けるあるべき資格を意味する換言すれば特に社會道德を自律的に實踐する主體が公民であり、かゝる生活態度を教養するのが公民的生活の指導である。

かゝる見地から小學校に於ける公民的生活指導の根本的な事項とも思はるゝものを列挙して見れば、

〔一〕公民的生活其れ自身を十分に理解させること。

1. 個人と社會との問題について正しき理解を與へること。
2. 公民的生活に必要な知識を與へること。
3. 公民的生活上必要な知識の利用、應用、活用等の能力を與へること。
4. 公民的生活に於て當面する各種の事件を適當に處理して其の批判選擇を誤らぬ意志を

養成すること。

〔二〕公民生活上必要な社會的道德の精神を涵養すること。

1. 公民的生活上必要な知識、能力の實際的陶冶の爲めに、日常學校に於て自治、協同の生活を尊重し、其の利用をなさしむること。
2. 公民的生活に當面して、必ず行ふべき社會奉仕に關係ある如き仕事を行はしめる事。

〔三〕よりよき公民として必要な根本的徳性の徹底をはかること。

1. 社會的生活に於ける個人の責任觀念の涵養。
2. 個人の獨創、獨立の精神を養ふこと。
3. 團體的生活に必要な協同的精神を修養せしむること。

〔四〕公民的生活上必要な法政、經濟の正しき知識と理解とを與へること。

1. 國家の目的、組織、機能に關する知識及び、地方自治團體の目的、組織、機能等に關する知識を與へること。
2. 其の運用に當つて充分なる貢獻をなし得る能力を與へること。

3. 法律、司法等に對する正しき觀念を與へ眞に法治國の臣民としてはちざらんことを期すること。
4. 經濟、財政等に對する正しき觀念と、其の運用上充分なる貢獻をなし得る能力を與へること。

等となる。尙ほ之れをせんじつめれば公民的生活の指導の内容は(一)社會共同生活(二)法制(三)經濟等の生活指導であるといふことが出来る。

かゝる公民的生活の指導は公民科なるものを特設して取扱ふことも結構ではあるが、我國の小學校教育の制度上には未だ之れを認められて居ないので、修身、國語、國史、地理、算術等の諸教科で其の主要を指導せねばならない。彼の郷土科、生活科、文化科などの施設は何れもかうした公民的生活の上に偉大なる價值を有するものである。

公民的生活の指導は之れを方法的にみれば、公民的理解と、公民的實踐との融合の上に成り立つてゐる。前者に於ては前述の郷土文化、生活の理解(郷土科又は生活科)修身科、及び公民科(國史科、地理科、國語科等郷土的、國家的、公民的學科の學習指導と、自治會、國家

的國民的行事作業等の實踐指導とが或は縦糸となり横糸となり常に偏することなく互ひに響き合ひ溶け合つて美しき公民的紋様を織り成して行くのである。

次に各教科の中に含まれた公民的理解を主とする教材の模式的なるもの二三を擧げて其の取扱ひの實際例を擧げて見よう。

**修身科**……公益、産業を興せ、我が國、忠義、學國一致、國民の務、よい日本人、共同

國運の發展、忠君愛國、忠孝、皇太神宮、憲法、國民の務、教育、國交……其他等々。

**讀方科**……大日本、税、分業、物の價、選舉の日、銀行、輸出入、平和なる村、裁判、

貨幣、自治の精神、新聞、國旗、法律、我が國民性の長所と短所……等々。

**算術科**……交通通信其他諸料金、歩合算、公債株式、貨幣制度に關する問題、其他

國勢の數量的方面のもの及經濟的方面のもの……

**國史科**……國家社會の成立、發達變遷の跡を明かにしたものであるから其の教材の悉く

が公民的な色彩を持つて居らないものはないが中でも建國史、文化史等は然りである。

**地理科**……國家の要素としての領土の研究である。善良なる公民はその所屬する國家と

自己との關係を自覺して居らねばならぬ。

此の他の各教科も何れも關聯的に公民的生活の學習に關係しないものはないが今は其の概要に止めて次に實際例について見よう。

**題目** 公民の務（國家的道德）

**目的** 隣保團結の精神を擴め市町村の公民としてよく地方自治の効果を擧ぐるやう指導する。

### 要項

1. 郷里の愛すべき所以
2. 市町村の制度
3. 市町村の費用分擔即納税のこと及納税一般のこと
4. 市町村會及市町村會議員
5. 議員の選舉とその心得

6. 市町村長
7. 公民としての心得
8. 住民としての心得

#### 學習程過 (全五時限)

1. 別紙「視察要項」を配布し一應の説明及び質問應答を了りたる後、市役所に引率見學す  
(主として獨自學習)

豫め市役所と打合せおき理事者の適當なる講話を求む(三時間)

2. 前時に於て兒童の體驗せる事項を發表せしめて相互學習をなす(一時間)
3. 前二時間に於て學習せし事項の整理、補説(一時間)

#### 第三學習過程指導案(一時間)

1. 前時に引續き兒童の體驗事項につき質問應答を行ふ(相互學習)
2. 修身書 教師用書載「主要なる説問」により既授事項を整理し同書説話要領を参照して補税を行ふ

3. 教科書取扱(朗讀と話の取まとめを爲す)
4. 綴方により發表せしむ(課外作業)

#### 市役所事務狀況視察要項

1. 市役所にはどんな係りがありますか。
2. それらの係りの人々はどんな仕事をしてゐますか。
3. 市役所に入出入する人々は何をしに來たのでせうか。また市役所の人たちは、それらの人々に對してどんなことをするでせう。
4. 會議室に番號札の立てゝあるのは何の爲めでせう。
5. 會議室ではどんなことを相談するでせうか。
6. 會議はどんな風に行はれるでせう。  
(君等の自治會と比べて考へなさい)

#### 注意

(イ) 役所の仕事のじやまにならぬやう靜かにしませう。

(ロ) 何かききたい事があつたら小さな聲で先生なり又は市役所の人なりに聞いてもらな  
やう。

(ハ) 研究したことは手帳によく書きとめておきなさい。

(ニ) 市長(助役)さんがお話して下さる筈ですから静かにしてよくそのお話をお聞きなさ。  
川崎市役所平面圖略す

**兒童の視察せる要項の實例**

1. 一部七課あり課の下に係りがある。
2. 各自その事務を執る。(係)  
それを課長が監督する
3. 個人の所用あつて來るもの。(納税、戸籍届出等)  
公用ありて來るもの(市會議員等)  
市役所内關係者(係員)
4. 一々名前を呼ぶよりも簡單であるから

**5.(イ) 市道路認定諮問答申の件**

- (ロ) 公有水面埋立地市域編入につき意見答申の件
- (ハ) 市立青年訓練所設置規程中改正の件
- (ニ) 金庫事務取扱規程中改正の件
- (ホ) 市有土地寄附處分の件
- (ヘ) 公有水面埋立地に左之如く大字名稱を附するの件  
大字名「扇町」
- (ト) 水道原動力用の電力供給契約に關する件
- (チ) 昭和二年度歳入出追加豫算金二十九萬二千六十二圓也等(以上可決)
- (リ) 問題朗讀——意見應答——

**同上其の二**

一、書記が問題を朗讀し、それについて議員が質問又は自分の意見を述べる。  
その質問に關係ある者(課長等)がそれに答へ、それより第一讀會にうつる。それが可決



すれば、第二讀會にうつる。又それが可決すれば第三讀會にうつる。そこで可決してそれを公布することになる。

一、裁決法。

主に多數決による、其の場合は議員一同が起立する。

一、自己の意見を述べる場合は議長の名指を要する。

要するにかうした實際的な公民的生活の指導は、兒童が地方市町村の公民として最も關係が深く、又最も親しい感じを有する地方社會を中心にして、有形無形の地方自治體の觀念を與へることが出来るのである。

次に公民的實踐の生活指導であるが之には前述の如く、歴史的國民的行事の生活と自治協同の生活たる自治會の生活とがある。

歴史的國民的行事の生活は、四大節を始めとして桃の節句、花祭り、端午の祭り、七夕や、乃木會、義士の記念日等枚擧の暇なき程多くあるのであるが、之等の生活は、其の中に往古の我が國民の思想感情が盛られてゐて、日本文化、大和魂の母體である。吾々はかうした生活の中

に浸つて行く間に理屈を超越して我が國家の理念と合致する公民となりつゝあるのである。

自治協同の生活たる自治會の生活は、立憲治下の公民として、自治協同の社會生活の形式を自覺的意識的に實踐せしめるのであつて、かゝる機關は自治會の相互生活團としての組織に俟つより他にはないのである。次に我が校の實際に就いて述べてみやう。

自治會は其の活動の範圍より見て學級自治會、校内自治會、校外自治會の三つとなつてゐて學級自治會は四年以上の各學級で組織し、級長を會長に副級長を副會長とし、其他各學級の必要に応じて部長幹事、組長等の役員を置いてゐる。今其の組織の一例を擧げて見れば、

學藝部・運動部・作業部 と分つてゐる學級もあるし、

學藝部・奉仕部・生産部として各部に部長一名、幹事三名、部員若干名宛を置いてある

學級もあるが、それ等は何れも學年の程度、性別、學級の個性等に應じて各それらの差異と特徴とを持つてゐるのである。集會は各學級とも毎月曜日の晝食時及其の直後に於て聞くこととし當日は全級兒童晝食を用意し來り、一同會食しつゝ（又は會合直後）諸種の問題につき協議し、又次に述ぶる校内自治役員會への提出議題について相談する。

校、内、自、治、會、は尋四以上の兒童全部を以つて組織し、各學級の正副級長を其の役員としそれ等役員相互の五選によつて正副會長を定めることにしてゐる。

校、内、自、治、總、會、は毎學期の始終及び特に必要ある場合の他は開催せずして、他は校、内、自、治、役員會の活動に俟つこととしてある。役員會は隔週月曜日の第六時を之れに當つることとし、校、内、自、治、會、係、の教師指導のもとに、主として校、内、の風紀、清潔、整頓其の他校、内、生活上の一般問題につき協議する。校、内、生活上の一般問題としては

1. 國民的行事實施に關する計畫、方針、實行等に關する件

例へば校、内、自、治、會、が主體となつて七夕會、義士會を開くとか、雛祭をやるのかなど

2. 生活料に關する件

3. 諸般の協同作業即ち學校及學級行事として重要な施設の計畫、實行、整理等

只單に形式的なる社會自治生活の實習のみに限定せず、校、内、活動の源泉として偉大なる價值を收めつゝある。

又校、内、自、治、役員會に於ては毎學期始め當該學期の實行要目を決定し全校兒童のよるべき道、

即生活の中心點を明示することになつてゐる。今年度第一學期の實行要目の大略に就いて述べれば

い、い、公、徳、を、重、じ、ま、せ、う。

といふのである。これは六男の發議であるが朝日新聞の公德運動などに刺戟せられたことが甚大であつた様に見受けられる。此の要目から發生して役員會で作られた具體的な生活標語を擧げれば、

△ 廊下は靜かに左側。

△ 廊下階段皆左り。

△ 道路も左が安全よ。

△ 人に迷惑掛けぬやう。

△ 廊下もバタ／＼馳けぬやう。

△ 便所はきれいに使ひませう。

△ 便所の戸締り氣をつけよ。

- △ たんつばむやみにはかぬやう。
  - △ 紙くすむやみに捨てぬやう。
  - △ 校舎校具を大切に。
  - △ 眼の悪い方氣をつけて早く治して下さいな。
  - △ 學校をきれいにすみよくいたませう。
- などであつた。之等の標語は何れも公德ポスターとして繪畫に趣味ある各自治會員の手によつて製作せられ、廊下、階段、便所其の他要所の適當な所へはられたのである。
- 又五月上旬の春季遠足は六年鎌倉、五年多摩御陵、四年東京——等とそれ〴〵實施せられたが、其の直前各學級は校内自治役員會の申し合せによつて、遠足につき公德上特に注意すべき點の申し合せがあつた。今五年生の申し合せ事項について見れば、
1. 集合の時刻をたがへぬこと。(遅れれば多數の人が迷惑する)
  2. 電車へ乗る時降りる時おさないこと。
  3. 電車や汽車の中では席をゆづり合ふこと。(特に老人や小さい子供には)

4. 待合室やホームや列車の中をよごさぬこと。
  5. 御陵地では殊に氣をつけること。
  6. 食物の包紙や果物の皮などは必ず塵入に入れること、若しなかつたらしまつておいて野や適當な場所へすてること。
  7. 汽車の窓からいろ〴〵のものをなげないこと。(あぶないから)
  8. 又たんやつばを汽車の窓からはかないこと。(後の人へかゝる)
  9. あぶないところへ行かないこと。
  10. 先生や組長のいふことをよくきくこと。
  11. 道は正しく並んで歩くこと。(共同)
- などであつたが、其の實施の成績はすこぶる見るべきものがあつた。
- 尙ほ實行要目は朝禮時などに反復練習し其の習慣化をはかり、役員會に於ける協議事項は必要に應じて全校一齊に或は學級別に、或は個人的に注意を與へたり通達したりする。
- 校外自治會は別に部落會とも稱し、通學區域の状況によりて數部に定め校内自治會と等しく

尋四以上の兒童にして當該部落の所屬者を以て其の會員とす。役員は各方面兒童の互選によつて部長(男一)副部長(男女各一)組長若干名を置く。集會は隔週一回部落別に開き當該部落擔任の教師必ず之れを指導す。會の凡ての記事は所定の日誌に記録せられ、一箇年間の成績特に優良なる部落は表彰することになつてゐる。

校外自治會の活動の殊に目覺しきは休暇中にして、特に夏季休暇中などに於ては其の成績大いに推賞に値するものがある。今其の實際記録の一例について見よう。

### 渡田中村暑中休暇中の状態

八月一日(衛生の注意 暑中休暇中の心得として我が方面では左記に記載の通り注意書を作製し役員互に合一し共に忠告す。

(イ) 生水を飲まぬこと。

(ロ) 無駄遣をしないこと。

(ハ) 悪い手遊しないこと。

(ニ) 夜遊をしないこと。

八月四日(水泳の注意)夏休みは言ふに及ばず水泳のことで危険な事があるから左記の様な注意を要して役員共に其の事に努める。

(イ) 水泳に行く時は大きな人と行く事。

(ロ) 泳ぐ時は綺麗な所で泳ぐ事。

(ハ) 泳ぎに行く時の持参物、帽子、履物、手拭。

八月五日(左側通行)以前にも左側通行の事に就ては種々の注意に依つて止んだが此の頃時々右側を通るのを見當るので部落員合同し尙氣を附ける事を續けてゐる。

八月七日 第一回部會開催す

(イ) 舊部長の自治様式の如く中村を三ヶ所に分けた(但し火の見近所と舊鳩の屋近所と合併し新火の見近所と稱す、鶴川屋近所、新火の見近所、新田神社近所、各其處を中心として區長を置き治める。區長は次の如くである。

鶴川屋近所(清水清)

新田神社近所 (出川一男)  
新火の見近所 (若林房一)

(管原時習)

(ロ) 今までの悪事を發表し會員に忠告す。

(ハ) 尙又部會の月割を左記の通りに規定す。

第二回部會 八月十三日 (八時より)

第三回部會 八月二十一日

八月十日 第一回學藝會を開催す。

(イ) 會員は少數で有つたけれども餘興は七八人振つて希望者が出て種々面白く又愉快に閉會す。

(ロ) 次にメンタルテストに似たる問題を出題したら仲々面白い解答が出た。

八月十三日 第二回部會開催す。

(イ) 中村會員でハタキ、雑布を作つて學校に寄附する見込。

(ロ) 御守多美男君、中橋森一君等の模範生徒も少からずある。

八月十五日 宮掃除を施行す。

今日はお宮の庭に塵が澤山落ちて居たので役員と相談の結果有志方々男女合併二十人ばかりで掃除した。結果は仲々良く出來た。宮掃除に出席した者は少數であつが思つたよりも早く出來た。

八月二十一日 第三回部會開催す。

(イ) 部會で規定されたる事は實行すること。

(ロ) 二十五日展覽會を施行し引續き學藝會を開催す。

(ハ) 三十一日役員會を開催す。(第一回)

(ニ) 追つて模範生徒に賞品を授典する見込

(ホ) 學校掃除を施行す。(二十三日)

八月二十三日 學校掃除施行す(學校奉仕作業)

(掃除を施行した場所)

(イ)花壇、(ロ)忠魂碑、(ハ)御眞影奉安所

終りに御眞影奉安所に並に忠魂碑に敬禮して歸る。

八月二十五日 第二回學藝會後第一回展覽會を施行す。

餘興は振つて希望者が出たので色々愉快に閉會した。

後展覽會に移つる品は約二十五點書方、綴方等を主として福田先生の教室に飾り會員と役員と見たる結果良と認められたものには賞品として學用品を授與し終りに中山先生もおいでになり「金持に成るまで」と云ふ題で面白い話があつた。

八月二十八日 第四回部會開催す。

(イ) 稻穂を取らないこと。

(ロ) 區長は何事も先に立つてする事(二十九日七時半より)

(ハ) 運動會を開催す。

八月二十九日 第一回運動會を開催す

午前七時半部員集合し午前八時より運動に取掛り種々面白くやり終りに各區より選手を

出し、優勝旗の取合ひをした(優勝旗は新火の見近所の者に握られた)

八月卅一日 第一回役員會。

(イ) 前に述べたる如く學校に寄附する物品を調べた事。

(ロ) 渡田中村の暑中休中の狀況報告のことについて研究した事。

一、事項なし。

一、會員中に病氣なし。

渡田中村取締役員(氏名省略)

之を要するに小學校に於ける公民的生活の指導は兒童の公民性の萌芽をよりよく助長啓培することにあつて、方法的には公民的理解を興へる學習指導と、公民的實踐を爲さしむる自治協同の生活指導とによつて其の目的を達することが可能であると信するのである。

私がこの稿を進めて居るとき、東京朝日新聞に痛快なる「兒童自治會」といふ記事が載せられた。痛快といふ意味は誤まれたる公民教育が諷刺的に描出せられてあつたといふことからである。その校の先生方がいつもその校の兒童の缺點を注意して來たので、今日は先生方の缺點

## 育 教 の 我 本 日

---

を聞かして欲しいといふのである。こんな自治會は公民的の訓練にはならない。一體自治會の本質を失つてゐる。

先づ裁縫科の女教員に對する奇襲に始つて、若い先生の稚氣、老女教員が教室に白粉鏡を用意してあつて、時々使用することが問題になる。やがて校長がタバコを買ひにやるのが問題になつて注意せられるといつた形式のものである。

小學校に於ける自治とはかうしたことか？全く困つたことである。自治は公民生活への訓練である。誤られるたるもの程恐ろしいことはない。

## 新日本主義を標榜する新學校

### 日本愛の學校

新日本主義てふ理想をかざし、これが實現にその日も足らじとする第一線に並ぶ學校、それはそも何れぞ。曰く和歌山縣師範學校附屬小學校、曰く岡山縣倉敷小學校、曰く徳島市高等小學校、曰く小樽市緑町小學校、曰く岡山縣師範附屬小學校、曰く鹿兒島市鹿兒島小學校、曰く川崎市田島小學校等であらう。田島小學校を擧げる事は自分で一寸苦しかつたが、以上掲げた五校に比して主唱に於て確かに先輩である事を信ずるからである。その理由とする處は後になつて明瞭にすることにする。

先づ和歌山縣師範の附屬小學校では、現在主事の中野八十八氏の主唱で、それに基づいて經營するところであつて、國本主義の教育といふのが、その原理であり、方法的經營としてはワカヤマプランの建設に努力しつゝあるのである。

この「國本主義の教育」は畏くもかつて天覽、台覽の光榮に浴したるものである。主唱者中野氏が數年前までお茶の水東京女子高等師範附屬の國史教育研究擔任であつたことは世人のよく知つてゐるところである。それで國本主義の教育主張もなるほど、頷かれると思ふ。實際的の成績も相當にあがつてゐると思ふ。

岡山縣倉敷小學校は倉敷町にある學校で校長は齋藤諸平氏である。丁度四年前かと思ふ「國民的人格主義の教育」てふ一書を公にし、氏の經營する小學校にこれが實際を實現せしめつゝある。

氏の國民的人格主義の教育とは、國家の維持發展を主とする國民主義を基本とし、各國協調の精神による國際觀念を加味したる國民主義の合理化を以て理想とするもので、實際教育の經營については見るべきものがある。

小樽市緑町小學校は『新日本主義教育』てふ名辭を以て、沖垣寛校長が先頭に立つてゐる。理想とするところは眞日本の創造にある。そして我が皇土の上に生々ぬいた動きなき事實を造り出すために、教育の事實を愛重するといふ思索と體驗とを力としてゐるものである。かうし



た學校經營について述べた『學校經營』といふ一著がある。やつぱり相當の實績を収めてゐる。

岡山縣師範學校附屬は前主事山崎英次郎氏が、『日本我教育』を主張したるもの、徳島市立特設高等小學校は前校長安部清見氏が『日本新教育』を標榜したるものである。前者は轉じて中學校長となり、後者は去つて實業補習學校長となつた。ためにその後の内容は如何になりしか、未だ後任者によつては何等發表するところとはない。

全く咲く花の一時なりし感がする。即ち二三年の主張に過ぎないのである。私はかうした主張への努力が一時的ならずして、後任者によつて繼續せられることを念願する者である。もつとも安部清見氏は、修身教授については全日本的に知られたる人であり、部下教員の理想實現への指導も十分であつたと思ふ。あの學校の中心指導二名が三日間にわたつて、私の學校に視察に來られたことがある。この人達を見ても校長の主張を中心として、かなり堅い信念に進まれてゐた。これ等の點からして、校長が去つてもまだ期待してゐる點が多數ある。

岡山師範の附屬の方は、或は旗印か變りはしまいかと思はれる。附屬といふ處は主事の出世

道であるといふことから、決して後の者は前者の主張を實現することに努めないところであるからである。然し首席訓導の須田一郎君は私の知人であるが、深い研究と強い信念を持つ人であるから或は何うか。

以上述べ來つた學校の内容については、私も相當とまで行かなくとも、かなり知つて居る。個人的にも知つてゐるし、倉敷の如きは講演に行つたこともある。それに經營せられてゐる内容の發表物も見てゐるのでそれについても知つてゐる。

只だ鹿兒島小學校については多くを知らぬが、主張するところ公刊物によると、『郷土に立脚せる世界的日本の新教育』といふのである。校長は兼子鎮雄氏である。

新時代に順應し新時代を創造する皇國日本の新教育の樹立といふのであつて、これが實現建設に努めて居られるのであるが、施設、實施事項から見ると面白いものもある様であるが新しいものであらう。

次ぎは田島小學校のことである。確かに設備の方面や校舎の悪いことでは以上の學校に比して、遠く及ばないところである。毎年一千名からの參觀人が全国各地から見えるが、如何に川

崎市の経済的貧弱さを感じるかも知れないことと思ふ。

しかし、日本的でなければならぬ教育主張は是等の學校より早かつたことは確かである。――大正から昭和への新主張、新學校としては確か先きであつたであらうと信ずる。彼の國民的行事生活による訓練等は、大正十三年頃相當に實際教育家の注目を惹いたものである。大正十三年に公刊したる『體驗教育の理論と實際』には教化價值としての國家價值を重視したる、方法としても幾分新しい着眼を發表したものであつた。

『日本田島に於ける新教育の實際』に於ても、日本人の日本人までへの教育實際を發表した。又東京帝大教育學研究室から出で居る、『教育思潮研究』第一卷、第二輯には、私がかつて物として『修身研究』誌上に發表した『日本民族理想と日本教育理念』の論文が問題になつてゐる。日本歴史の内在する民族精神の建設方面を歸納して、日本民族永遠の理想とし教育方法とすることの立場についての疑點であつた。

一體體驗教育の理想とするところは、日本文化の創造建設といふところにある。かうした理想觀を明らかにするために、大正十五年には『日本文化教育學』てふ一書を公刊したのであつ

た。私の獨斷に導くを恐れて、入澤博士の修訂を乞ふて發刊したのである。日本文化の創造、建設の内容なり、それが方法については稿を改めて述べる機會があらうと思ふから、こゝにペンを擱くこととするが、終りに昭和新中国の爲に、前途大に期待を持し、これが發展を祈つてゐる次第である。

## 日本民族的意識の陶冶觀 日本愛教育の原理

彼のノバリス *Novalis* がいつた『一國民は一人の兒童の如く一個體をなせる教育課題である。』といつた教育のモットーは、吾人の考へさせられる言葉である。

其のモットーの意味するところは、一個人は一個性を所有することの意味を擴張して、一國民が一個人の兒童の如くに一個性を所有することの意味であつて、全一體たる教育の精神的、統一的意志體たることを意味して居るのである。そして教育は民族團體の教育であり民族によ

る國民團體の教育であり乃至は文化國家の建設であること、即ち民族の陶冶であることを意味して居るものであると思ふ。

我が國の教育界に於て未だに知的な學習學校とか、學習生活とかいつて教育の生活を考へる向もあるが。學習學校よりは教育學校に改めねばならぬ。之れウンテレヒトからウンターリヒトへの作爲でなければならぬからである。

私の信ずる處では、眞の教育陶冶の作爲をなす所は、體驗學校であり、文化生活學校であると思ふ。體驗學校は國民的統一による新國民のために向上發展を目的として居る國民生活指導をなす學校であり、全人的な立場に於ける生活體驗をなさしめる學校であるからである。文化生活學校も國民文化の傳達と涵養であり、文化の主觀化客觀化のよく行はれるところで、人間の内的本質的發展の實現せられる學校である。

さて民族とは國家的生活を營むところの集團生活の精神的結合體である。そして國家的生活を營むには集團的な運動をなすものである。それを民族運動と稱する。其の民族運動の一始終を歴史的生命といふのである。

民族の結合上數多の種族が結合して一國家を組織する民族運動には中心に必らずや一つの統治的意志が存在する。而して其の統治的意志の及ぶ範圍と種族結合の範圍とは一致するものであり、民族結合的生活は民族全體の時代思想となり、其の國の統治者によつて代表せられるものである。

民族の意志的運動の現はれが、文化的構造の現はれであり、文化國家の組であり國家的生活のそれであり、日本人てふ民族的意識に表現せられたる意味の世界である。

地球上に横はる他の民族の有する意志的運動は相互に相違して居る。それがために歴史的に相互異なる意味の世界が開展されて來たものであるし、又展開せられつゝあるのである。日本に於ける民族運動の展開を見るに、天照大神の皇孫天津彦々火瓊々杵命に下し給ひし神勅、『葦原千五百秋之瑞穂國は、これ吾が子孫の王たるべきの地なり。宜しく爾皇孫就きてしらせ、寶祚の隆なること、天壤とともに無窮なるべし。』さては神武天皇が橿原の地に宮を建てたまひたる即位建國之大詔『我が東征してより、茲に六年なり。以て皇天の威に頼り、兇徒戮に就きぬ邊土未だ清らず、餘妖尙梗たりと雖も、而も中洲の地また風塵なし誠に宜しく皇都を恢廓し大

壯を規摹すべし……』にも明らかなることである。明治天皇の御製を拜誦せんに、  
わが國は、かみのすゑなり神まつる、

むかしのてぶりわするなよゆめ。

あし原のみづほの國のよろづ代も、

みだれぬみちは、神ぞひらきし。

其の展開運動を見るに比較的高き文化を有する民族が、比較的低き文化を有する民衆に臨みての、教化中心の民族運動の表現であり民族の神聖觀念たる皇統よりの統治的理思の現はれである。統治的理想は種族的差別を固執しない教化を主義とするものであつたのである。之れが肇國の精神は創建者一人の思想ではなくて、日本民族が眞理と了解し體驗したる自覺の上に生れ出でたる民族精神の表現に外ならぬのである。

一體日本の民族的意識は日本の歴史的社會的文化の了解によつて體驗せられる意味の存在であり、日本の民族的生活は、民族思想の『生』を展開せしめたる事實であつて、其の民族生活の原理は民族的『生』に基因するものである。

民族運動の具體化したるものが國家たる統制態である。其の統制態は生活として見れば『生』であり、『生命態』である。國家てふ事實は體驗の中に常に、一つの關聯として與へられて居る即ち活動であり、作用であり、生命價值である。其の生命價值を合目的に増進せんとする内的活動が國家である。

個人と自然、個人と文化、個人と個人との交渉によつて成立つて行くところの作用の關聯である。生命價值を有する人格が國家を建設し、一切のものを支配し、作用し關聯し合ふ。即ち價值を確立して目的を定め、之れを實現せんとする意志の内的活動に依つて、一切を支配せんとする作用であつて、之れ國家てふ生命態の事實のそれである。

かく國家は意味組織であり、全體的の組織であり統一的な精神の構造の事實である。統治の理想あるものと統治の幸福とを理解したるものと和合して要素に分離することの出来ない統制的意味組織構造體が、國家てふ内的な文化悟覺の事實である。其故に意味組織體乃至統一體といはれない未開野蠻の人間には、部落は存在するが國家としては無いことも自明なことである。そして國家てふ生命態の作用關聯の過程が、強制的であつたとしても又は、同化であつたとし

ても乃至は併合であつたとしても、それは勿論意味構造である。

一體國家事實は土地、自然の關係をはなれて體驗することは出来ない。國家組織構造が統一性を失つたときに活動性、歴史性乃至は發展性、連続性は失はれて、國家的生命は滅亡し、關聯から自然は分離し、萬古の風光のまゝに水清く、山青き土地を史上に辿り得るのみとなるのである。

要するにかく統一的の關聯のあるところに國家としての發展が存するものである。以上の如く國家事實を自省する事を得る吾人は、即ち國家的生活に生くる國家人であることも事實である。

三千年に亘る要求實現の中に生活する、そして日本人たるの生活を意識的に生活して居る他の個人と結合し、連絡して歴史的に社會的協働をして居る。目的實現の爲に特定の個人とか、時代を超越して生活々動を實現して行く。之れが日本文化意志の構造姿態である。

此歴史的文化、歴史的の活動、價值實現の活動なるものは國家てふ生命態と一即不離なる姿態であつて、意味構造の事實である。かゝる國家なる組織體は、實質的には國民個人の意志が

陶冶及び依存の共同的關係にあるものであり形式的には個人國民は相互作用より共同存在及び規制の關係に於て統一的の關聯をなして居る。そして科學、宗教、道德、藝術、政治、經濟として生活を統一結合して居るのである。

私は國家をして意味組織であるといつた。そして統一的の關聯によつて活動性、發展性、連續性を有することを述べたのであるが、若し國家てふ事實にかゝる本質を有しない組織としたならば、歴史的生命の歴史性は失れるものである。統一的の關聯態は上下同治の關係にある所謂調和的、統一的事實であるから、外的に見て何等強制を受くるの感を有する生活ではなくて自由性を有するものである。かくて組織體の作用關聯を體認することは國民の心の體認であり國民の心は國家と關聯して働く精神即ち根本的體驗である。

而して民族乃至國民は民族文化乃至國家文化の流れの中に生活することによつて價值ある生活は發見せられ、根本的體驗によつて文化、史的生命は現在に生き、そして將來に生きて行くかくして民族個性なり國民個性は創造せられて行き、史的社會的の個性は伸暢せられて行くのである。

民族的な文化生活は民族的な文化體驗であり、民族的な文化の體驗は民族意識の陶冶である。

## 日本民族理想と日本教育理念 日本愛の教育原理

私は日本民族の理想を考察し日本教育の理念について述べやうと思ふ。さて日本理想とは民族の理想乃至國民理想についてを意味して居るのであり、日本理想の究明は、即ち日本教育の理想より方法建設に對する必然的な條件である。

さて教育は民族文化の展開、國民文化の創造であり、文化の體驗を理想とするものである。之れ近時の教育思想界は、一般的陶冶に傾きすぎて居る。文化價值の普遍妥當なるものを體認せしめやうとして居る。餘りに形式的に偏して居る憾があるではないかと思ふ。

一體人間生活は、神の無限性を意識し、益々特殊化することによりて、そして愈々普遍化せんと努力するものである。即ち具體的な生活に於ては、當爲の普遍性と事實の特殊性との綜合

である。この普遍にして特殊な具體的な生活の指導ることを教育である。

教育が文化の傳達乃至創造であり、之れを永遠恒久に發展せしめんとする精神的な機能であることは明瞭な事象である。而して此の文化は歴史的に社會的に制約を受け、特殊の様相即ち個性的であり、一回的の様式を帯びるものであることも理の當然である。

教育に於ける文化の傳達乃至文化價值の體驗は自國特有なる自主的なものを中心として、體認せしめねばならぬ。只だ漫然たる一般的な文化價值の傳達體驗にあるならば、自國の民族的な理想、自國の國民的理想は體認せしめることは出来ないのである。

之れ教育は即ち、自國の民族の本質、民族的特質を基礎とした文化の發達擴充を理想とするものであるからである。然らざれば國民的陶冶とはいはれない。抽象的にして一般的な人の教育となり、一國の理想による陶冶は望まれない。教育上に於ける文化の傳達は、具體的事實に關することであるからである。一個人、一國人について考へて見るならば、個性は特殊である。其の一々の特殊個性を發展せしめることがやがて國民生活の進展となり、文化の展開となるのであり。各國民が國民個性を發揮開展することが、やがて人類文化の全體への貢獻となる

のである。

正しき民族理想は、自國の建國と共に存し、自國の展開によつて、いよくそれが明瞭に意識せられて來るものである。決して假空的なものであつたり、空中樓廓を築く的なものではなく、一向危険性とは有して居らない。即ち民族生活を繰り返へし、繰り返へし、次代へ次代へと連続して行く特異な使命である。其の使命即ち、國民文化の理想が明瞭に意識せらることは、民族信念となつたものであり、幾多何千年の歴史的事實よりの體認したるものである。

此の體認したる國民文化によつて將來を意識することが出来るし、従つて教育理想も建てられるし、教育方法も建てられるのである。私の志して居る教育研究も此の文化哲學的の立場に於てあるのである。即ち國民文化意識の陶冶乃至日本民族的個性の體認にある。以下日本民族乃至は日本國民の外的社會組織について述べやうと思ふ。外的な社會組織とは精神的、統一的結合的組織生活をいふのであり、日本精神生活の事實である。

### 皇室中心

我が國民精神の中心をなすものは皇室中心であり、我が民族精神の中核をなす精神的理想も亦皇室中心の思想である。此の精神は我が日本國土に歴史的事實が發展して以來の歴史的事實によつて民族の頭上に運命づけられた事實であつて、民族的精神となり、民族的信念となつたものであることである。

彼の神話の中にある建國の神勅即ち天孫降臨に際し、天照皇太神の仰せられた詔勅の如き、天孫の統嗣すべき理想が、自然的に語られて居り、日本民族の始祖を示し、氏族の中心核子を同一祖先として氏族結合して先住民族を同化し、融合し渾一して天孫の系統より其の枝葉の傍系の繁殖を表はして居るなど、皇室中心の民族理想を表はしたものである。

日本民族に於ける皇室中心は祖先崇拜と表裏同一體の関係であつて、且つは氏族制度とも不離の関係にあるものである。氏族は同一祖先より分かれ出でたる血族團體であるから自然、氏族の中心は同一祖先である。同一祖先は同情、思慕の愛著を以て相互に求心結合するものである。

見よ日本民族に於ては大宗家たる皇室に於ける祖先崇拜の事例を。而して氏族に於ては氏族

團體の始祖たる氏神を崇敬して、之れを祭祀するあり、各家族に於ては、家族團體の祖先を崇拜して祭祀するものなどがあるなど、皆之れ日本民族の求心的なる血族團體を示すものであり皇室中心を象徴するものでなくてなんであらうか。

更らに我が日本の皇室には、其の姓なきことを見よ。他に類なき事實ではないかと思ふ。外國の皇室には各々其の姓を有する。例へば彼の英國のハノーバ家、和國のオレンチ家前獨帝のホーヘン・ツオルレン家、前露のロマノフ家といふが如きそれである。何れにしても皇室の廢せられる等のことは日本民族の大宗家には夢だに考へられぬ事象であることである。

皇帝は「すめらみこと」である。「統べらるゝお方」であるから特殊の地位に立たれる方で日本に於ては皇帝は、「すめらみこと」である。天皇と國民との間に特に姓氏を設けて區別する必要とてはないからである。

以上にして我が國民道德の大本たる忠孝の信念は、此の民族的なる求心思想から發して、儼然として動かざるものである。尙ほ烈聖の仁徳と民衆の忠誠とは、益々其の信仰を深めつゝある。かゝる歴史的の事象、従つて歴史的の信仰は、建國以來三千年民族の血と肉との中に叩き

上げ鍛ひ上げられて來た信念である。

### 民族平等

我が民族史を觀るに中世に於て、武家の興起に伴ひ、系圖のことから旗印、紋章等によつて上下差別階級を、やかましく論述したものであり、其れが下つて徳川時代にまで及んだのであるが、其の民族成立の上を見るに、民族の信仰的な理想に於ては皇室以外は平等であつた。

即ち皇室と臣民との關係は直接的である。臣民は直接皇室を戴き、皇室は直接に臣民に臨み凡ての人が神の前に平等であるが如くに、臣民は皇室の前には平等であつたのである。尤も皇室は國民の宗教的信仰の中心であつて、天皇は神人の間に立つて、臣民に君臨せられた。之れ皇帝崇拜の神的信仰である。彼の「續日本後記」の中にある長歌の一節にも、

「我が國の聖の君は尊くもおほましますか、日の宮の聖の御子の天の下におほましまして、御代々々に相うけつぎて君ごとに現人神と、なりたまひおほましますせば四方の國隣の君はもゝとつぎにつぐといふともいかにか等しくあらむ」云々



萬葉集の中にもかゝる思想を表現したるものがある。而して成立したる日本民族は、族制的な結合によつて姓氏の別が整然として現はれるに至つたのである。即ち天孫の子孫たる皇族及び其の子孫を皇別といひ、天孫瓊々杵尊の御兄弟或は其の以前の神々の子孫を神別といひ、外國の歸化人を蕃別といつた。そして大氏小氏に別れ、住居、職業の地名によつても、氏の名が定まつて居た。即ち御供する氏を大伴氏といひ武人の氏を物部氏といつたことや、難波氏、蒲生氏、足利氏、新田氏の如きがそれである。

大宗族たる皇室によつて統率せられたところの幾多の氏族團體は、無数の小氏族團體の結合によつて、其の内部には本流と支流とを關係的に發生して、本流たる氏を大氏といひ、其の分流乃至支流の氏を小氏といつた。而して大小氏各々の族長を上と呼び、氏族の構成要素たる血族の入々を氏人といひ、そして氏人の間に於ても血族關係の近き人は、相結合して家を構成して居た。而して族長たる氏の上は、氏人全體を統率して皇室たる大宗家に奉仕して居たものである。

以上の如き姓氏の別は特權階級の發生の如く考へられ易いが、之れは宗家本家が、分家を支

配するといふ族制政治の結果であつて、普通の階級制度によつて出來た思想ではないのである。其故に其の間に流るゝ思想は、デモクラチックな精神の流れである。それが徳川時代に至つて武家百姓町人等の區別を生じたる之れ變態であり、病態であるが、明治維新に至つては民族本來の理想にかへり、國民皆兵、四民平等となり、民族理想の本旨にもどつたのである。

大化の革新に於ける平等の實現を、之れ民族理想に反したる族制の結果行はれたる弊害よりの革命である。私民私領土より全國民は公民となり、公地とし、天子は直接に凡ての國土と人民とを支配するに至つた。班田收授の法の如き天子の前に於ける絶對平等であつたのである。彼の明治二年に於ける版籍奉還の議起り、之れが實現を見たるが如き、其の形に於ては革命の形式を表はす事も、其の實に於て其の擧に於ては、『臣等居る所は即ち天子の土、臣等收する所は即ち天子の民なり。安んぞ私に有すべけむや』の信條からである。

之れ我が民族史の指示する大義名分によつて平等にかへつたものであり、建國の理想信條と信じての事である。明かに皇室の前に平等を示したるものでなくて何であらう。

かくして我が民族は其の理想によつて、政治は行はれ、民は其の自主開展に努めたが、たま

たま其の理想に反たしる政治の行はるゝに方つては、忽ち本然の性に反へりて其の國運の伸長を來たしたのである。

### 融和渾一

我が民族は思想上に於て極めて自由主義を理想として伸展して來たことは其の歴史が示して居る。彼の儒教の傳來に於ける、佛教の傳來に於ける、耶蘇教の傳來に於ける多少の争鬭はあつたとしても、其の態度の一般が極めて寛容なる態度によつて融和し、渾一し、同一化して來た。かゝる歴史は悪くいへば模倣主義に傾き、其の實に於て獨創的文化への貢献に薄き傾向があるとの批難がある。

然し模倣は直接創造に連續する態度であり、融和し渾一することは、新地位域への合一であり、文化移動、文化展開への貢献となるものである。而して世界の文化移動にも遅れずして民族の適者生存性の發揮となり、乃至は文化思想に對して凌駕して行くのである。

見よ日本文化を。

紀元九百四十四年應神の朝、儒教の傳來に對しての民族の態度や如何に、其の民主的支那の思想は我國のそれと全然異つて居る。即ち堯舜の禪讓や、湯武の放伐を謳歌する思想と我國の天孫以來の天祖が、世々子孫まで王たるべき我國民族信條と異なることは火を見るよりも明かなことである。我に忠を主徳とするに對し、彼は仁義を高唱し、我が忠孝一致なるに對し、彼の不一致にして、より以上孝を重んずるが如き我民族性の前進的進歩的なるに反して、彼は保守的であり、回顧的であるが如きそれである。

而して國體觀念に於ては萬古不易にして一點の默殺を許さぬのであるが、社會組織上兩者共に家族制度の國であり、民族思想上に於ては現實的樂天的なる一致を見、道德思想上に於ても精神主義なる點に契合點を持つ。其の教旨は民族精神に融和渾一せられた。やがて融和せられた思想は、日本民族の一新時期を劃したことである。

次に欽明天皇の期、一二二二年百濟聖明王の釋迦佛像及び經典を獻するありて、此處に思想的革命を發生した。即ち教義は儒教とも大いに異なり、我が國民固有の思想信仰と相容れず古來の神祇を冒瀆するものであるとの意見あり、蘇我家と物部家の政權争奪の具に供せられた。

併し幾多の盛衰の結果、推古天皇の時代となり、聖德太子の歸依によつて崇佛黨の勝を博し、隆盛を極めた。其後歴代の皇室に於かれて尊崇せられたのである。

然るに我が思想と甚だしき相違を見るのである。即ち現實的、世間的なるに對して、出世間的、厭世悲觀的、消極的な教義である。大慈大悲を主義とし、博愛平等觀に立ち國家を忘れたる。世界主義的たる崇祖忠孝を主徳とするに對して、佛陀崇拜を主とし、彼の神佛同體説、本地垂迹説、祈禱幸福等の國民的努力は皆彼此調和妥協の策に出でたるものであつたのであるが、何れにしても寛容自由なる態度によつて融合し、深遠靈妙なる哲理を味ひ、高尚なる文化の開展に資したものである。日本民族史上、民族的に活躍時代を作つた。即ち審美的意識の活躍した華かなる時代となり、かゝる意識を至上として文化一般を表現した「善即美」の時代を創造したのである。

紀元二二〇九年天文十八年の天主教葡萄牙の宣教師フランシスコ・ザビエルの鹿兒島に來たるあり、布教に従事し歸依する者が多く出來たのに始まる。宣教師は相繼いで來たり、極めて熱心に布教に従事、織田信長は僧侶の專横に對する政略上、之れに保護を加へた爲め、非常な

勢力を以て傳播し、豊後の大友宗麟、肥前の木村純忠、有馬晴信、三侯最も厚く信仰し、使節の派遣などあり基督教は安々として傳播されたのである。

然るに之れが禁止となつたのは、これまた主として政治上の必要に出でたものである。即ち政治的に侵略の具となしたるに原因するものであるが、其後徳川氏三百年の後漸次普及せられて來た。之れ思想的自由主義によつて融和混一したるものであつて、博愛主義をして（他人を愛するを）國を愛する盡忠報國の教として順應發達したるものである。

明治維新は政治上の大改革期であつたのみでなくて、思想的精神界の革命的變動期をなして居る。先づ舊制の破壊をなし、新らしき文物の輸入に熱中した。之れ西洋の功利唯物觀自由平等思想、分析的科學的思想の影響よりしての原因である。

板垣一派の自由民權説や、國會開設の請願書提出、國會開設は之れを象徴するものであつた。然るに一面に於ては之れが反動的思潮高まり、國家主義乃至國粹主義の擡頭したることに注意せねばならぬ。

明治二十三年には教育勅語の煥發があり、國民に對し、大和民族の思想的精華たる忠孝道德

を大本とせられた。

三十七八年役に於ては思想上に大なる變動を生ぜしめ、國民的自覺と個人的自信とを覺醒せしめたものである。

以上支那印度歐米の文化乃至は儒教——佛教、基督教或は其他の諸々の思想は、日本文化の中に「我が働き」「生命」として日本文化の全體性を彩りの色の一色としての地位を得つゝあるのである。かくして吾等民族の歴史は偉大なる融和渾一主義の歴史を共有し、體認して居るのである。そして吾等の理想とし、目標としてかざしつゝ轉回しつゝあるのである。

### 自主精神

國民が日本民族たるの意識に立ち歸つた時即ち民族生活を反省した際は誰しも日本文化の自主的精神を體得するならんと思ふ。即ち我が民族成立乃至は國家成立より現在の民族に至るまでの日本民族文化の中樞を流れつゝある民族——日本人の優越性を顧るならば、それが明かになる。其の自主精神とは如何。其の自主精神の根據や如何に。

大和魂といはんか、或は國民精神とははんか、この精神の自覺が、民族文化の建設に重大なる地域を占めつゝ來つたものであるし、而して現在の國民的我を知ることであり、各個人國民の有意的活動をなさしめる源泉——動力となるものである。

そして又國民の有意的活動の標的、理想としての民族精神は國家國民の統一原理ともなるものである。其故に國民國家の自覺とは、此の民族精神に目醒むることである。

以上の見地よりして我が民族史——國民思想史を見るならば、その精神なるものが明らかに體認せられるのである。

聖德太子の業蹟、大化の改新の實も、大寶律令の制定も、平安の遷都も、和魂漢才説も、さては武士道の建設、親鸞、道元、日蓮の三聖による眞宗、曹洞宗、日蓮宗の具體的組織も、徳川時代の自主的思想の勃興も——水戸光圀の修史事業、山崎闇齋の垂加神道、山鹿素行の中朝事實、本居宣長、平田篤胤等の神道國家に關する著述研究、二宮尊徳の思想、渡邊華山の思想の如き——さては明治維新の成功も（明治天皇の御理想實現）五大強國乃至三大強國への向上も之れが精神に職由するのである。

之れ民族精神が自己の精神力を棄てずして自らを自らが斷定する。そして其の規定を止揚して新しく豊富に充實せられ深化せられ淨化せられて行くものである。見よ民族文化の歴史が示すところの大なる體驗を、之れが「祖先ノ遺風」であり「光輝アル國史ノ成跡」であり「國體ノ精華」である。次ぎに是等の思想が内含する精神内容を述べやうと思ふ。

聖德太子の思想には自主的、國家的な存在の意志が極めて明瞭であつた。即ち天皇紀、國紀、臣、連、伴造、國造百八十部、並びに公民本紀を編纂したること、或は遣唐使小野妹子にもたらせる國書に述べたる「日出する處の天子、書を日没する處の天子に致す、恙なきや否や云々」十七憲法の制定など、自主的な其の態度が活躍して居るのである。

淨土眞宗の開祖である親鸞は、別に一宗一派を創立する考とは無かつたらしい。勿論信仰者は一般庶民及び武士間に盛ではあつたのであるが、其の宗名の起れるは、其の著述たる「教行信證」にあるのである。大無量壽經、末燈鈔、確信鈔文意等を引いて自ら掲げたる所に依つて定まつたものである。

親鸞の思想は此の教行信證によく現はれて居る。其の中心思想とする所は、吾々人間の無力

あることを自覺するといふにある。唯一向に彌陀の慈悲にすがつて、其の救を憑むより外には何事も出来ないものであるといふにある。

之れに次いで、道元禪師は宗教の改革者であつた。顯要なる僧位僧官を欲せずして、有力なる政權の後援より遠ざかり政治的な纏綿より脱却して、佛教の學問と佛教の信仰上の混同をさげ、佛教本來の行化たらしめた。

而して極力道德的力行を高調し、道德律の森嚴を力説した而して更らに解脱救済の思想を傳へ、懺悔滅罪の福音を述べたのである。

彼の山鹿素行は國民史を書き上げて民族的國民的自覺を促して居たものである。其の著書の中朝事實と命名した。之れ日本自主的文化を唱導したものである。其の序文に曰く、「恒に蒼海の窮りなきを見るものは、其の大なるを知らず、常に原野の畦なきに居るものは、其の廣きを知らず、是れ久しくして狃るればなり。豈啻だに海野のみならむや、愚、中華文明の土に生る。未だ其の美を知らず、専ら外朝の經典を嗜み其の人物を慕ふ、何すれぞその放心をや、何すれぞその喪心をや、抑々これ奇を好むものか、將、また異を尙ぶものか、夫れ中國の水土、

萬邦に卓爾たり、而して人物は八紘に清秀す、これれ神明の洋々たる故なり。

聖活の繇々として煥乎たる文物、赫乎たる武徳、以て天壤に比すべきなり、今歳冬十有一月皇統の事實を編し、兒童をして誦せしめ、其の本をして忘れざらしめんと、云爾」。と以て氏の獅子吼の程が知られるのである。明治大帝の御理想として或は我が民族理想としての自主的表現たる教育勅語に「朕惟フニ吾カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス」とあり、今上天皇朝見の御式の勅語に「質實ヲ尙ヒ模擬ヲ戒メ創造ヲ勗メ」とおほせられたるは自主創造的なることを新興國民に講ぜよとの御意ならんと拜察するのである。

### 精神結合

日本の民族は必然的に歴史的に精神結合性を體驗しつゝある。其の體驗を民族の理想として來た。想ふに之れは言語、人種、人情、風俗、習慣等の上に於て全體としてより高次なる建國肇

造の信念であつた。そしてこの統一的結合體は民族生活乃至國家生活をなすにあつて、皇室を中心として即ち、國家生活の一員として國家の發達を健全ならしめんとする道念たる中心の概念と、家族生活の一員として家族の發達を健全ならしめんとする道念たる孝の概念とを唯一の道念とし、信念として民族的國民的の結合をなして來たのである。

要するに、忠君愛國と孝道とを中心概念となし、最上唯一なる道念とし理想として來たのである。

さて歴史を見るに民族結合たる國家の價值をして絶對的なりと信じ、氏族人乃至個人は國家あつて始めて相對的の價值を有するものなることを信じて來た。見よ忠君愛國に對する事實或は思想に於て、孝道と衝突する場合孝を捨て、忠に赴くを以て大なる孝道に一致し、孝道を全うするものなるを信ずる。かゝる信念的道念によつて歴史的に民族の道德的人格を陶冶せられて來たものである。

我が祖先の抱きつゝ居つた至醇なる精神的生生活の一部を見るも絶えず彼等の心の内部に動いて居たのである。即ち、「ここをしも、あやにたふとみ、られしけく、いよゝおもひて、大

伴の、遠つみおやのその名をば、大來自主と、負ひもちて仕へし宮、海ゆかば、水づく屍、山行かば草蒸す屍、大君の邊にこそ、死なめ、かへりみはせじ」。の如き民族至誠の動きであつたのである。

彼の聖德太子の十七憲法は國民の自主意識の表現であつて、國家的意識の自覺に基づく統治者の指導意識の現はれであることは明瞭である。其の十二條によると次ぎの如くある。「國司國造百姓に斂すること勿れ、國に二君なく、民に兩主なし、率生の兆民、王を以て主となす、任ずる所の官司は皆これ王の臣なり、何ぞ敢て公と與に百姓に賦斂せん」とある。大化改新の詔にも此事が見えて居る。

蒙古來襲についての民族結束を忘れてはならぬ。日本國の臣従を強要せる蒙古に對する日本精神の發現であり、民族自尊心、民族結合の偉大さの表現である。

近古に於ける楠木氏盡忠は民族乃至國民精神の根柢に通ずる皇室に對する忠誠道念なるも見様によつては、民族結合の精神の發露とも見られるのである。「七生までも生れ代り、此の日の本の御國を護らう」と。

同じく菊地武重が血を以て署名せる願文の如きは、熱烈なる信仰的願望であつた。「自分は朝家の御爲め、三寶の御爲めに盡して來た。其のために今度はかゝる發願をする。自分は正義のために滅びても、少しも恨む事はない。只だ願はくは其の決心が未來に残つて上願成就する様に云々」と。

やがて幕末に於ける勤王思想の高潮せられたる建國の民族理想に蘇へつたものであり、民族結合の象徴である。徳川幕府に反抗する著述として筆禍を買つたものに、山鹿素行の聖教要録、宇部宮遷庵の先哲叢談、熊澤蕃山の大學惑問等を始めとして仲々多數あつた。

竹内式部は靖獻遺言によつて尊王復古の思想を鼓吹し、山縣大貳は著書柳子新論によつて、國體論を述べて教授に努め、藤井右門は熱心なる尊王論者であつた。高山彦九郎、蒲生君平、林子平の三奇人を始めとして、藤田幽谷、紫野栗山、頼春水、次ぎの時代に於ては、頼山陽、藤田東湖、梁川星巖、會澤安、平野國臣、藤本鐵石、久阪玄端、眞本和泉、吉田松陰等が有名である。

最後の幕末の問題として鎖國思想と開國思想の對張の如き其の所論の難きものであつたが、

外國に對する大政復古の報告と内國官民に賜つた開國の國是たる勅諭によつて其的一幕はとぢたのである。「外國の儀は先帝多年の宸憂に被爲在候處幕府從來の失策により因循今日に至り候折柄世態大に一變し大熱誠に不被爲得已、此度朝儀の上斷然和親條約被爲取結候就ては上下一致疑惑を不生大に兵備を充實し、國威を海外萬國に光輝せしめ祖宗先帝の神靈に對答可被遊叡慮に候間天下列藩士民に至る此旨を奉戴心力を盡し、勉勵可有之候事

但是迄於幕府取結條約之中弊害有之候件件利害得失公儀之上御改可被爲在候猶外國交際之儀は宇内之公法を以取扱可有之候間此條相心得可申候事」

さて新附の民に對して國民的な統一、社會的歴史的な統一への同化乃至は自覺へと努めて居るのである。韓國併合の詔書の中にも「茲ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ。韓國皇帝陛下及其ノ皇室各員ハ併合ノ後ト雖相當ノ優遇ヲ受クヘク、民衆ハ直接朕カ綏撫ノ下ニ立チテ其ノ康福ヲ増進スヘク、産業及貿易ハ治平ノ下ニ顯著ナル發達ヲ見ルニ至ルヘシ、而シテ東洋ノ平和ハ之ニ依リテ愈其ノ基礎ヲ鞏固ニスヘキハ朕ノ信シテ疑ハサル所ナリ」とおほせられて居る。大正八年八月十九日には官制改革の詔書を宣布せられ、「朕夙に朝鮮の康寧を以

て念と爲し其の民衆を愛撫すること一視同仁朕が臣民として秋毫の差異あることなく各其の所得其の生に聊し、齊しく休明の澤を享けしめむことを期せり……………官を制し以て施政の便に資し治化の普及を圖るに外ならず……………」と大義を宣布せられ精神的結合の方針をお指示あらせられたる御聖旨の程、仰ぐも畏き極みである。

又、今上天皇御踐祚にあたり元號を「昭和」と改元せられたる。之れ新興時代の象徴であると思ふ。即ち昭和は書經の堯典にある百姓昭明協和萬邦の句かし出で、内は君生一致の親睦を極め外は列國協同の平和をいたすの意味に外ならぬことは、内に精神結合を外に共存共榮を昭和の使命とすべきことを意味するものである。

### 活 動 的

日本民族は古來より勇健敢爲なる活動性に富んで居つた様である。即ち活動することを以て理想として來たのである。彼の神話にも其の性格が表はれて居る、即ち素盞鳴尊の如き勇猛なる神を現はして居るではないか。



仲哀天皇の皇后、神功皇后の熊襲親征の軍に従はせられ、天皇の崩後より自ら新羅征伐の軍を督せられたるが如き女性としての活動性の表はれである。

平安朝に於ける鬼童丸、袴垂の如き大賊、山賊の巨魁酒頭童子の出現、源頼光の怪力、渡邊綱、坂田金時、碓井安光、卜部季武の四天王の強力、さては武士の起原——殊に桓武平氏、清和源氏の出現等はあながち地方政治、中央政治の亂脈ではあるが民族活動の象徴としても見られ得るのである。

源平二氏の興亡盛衰から文永弘安の役、北條氏の反亂、永亨嘉吉の變、續ては應仁の亂、戰國に於ける諸英雄の活躍といふ國史、近くは日清日露の兩役といふ順序で、國史は血を以て彩られたるが如き觀を呈し、爲めに我が國史を以て決戰の國史とし、我民族をして好戰の國民となす外國人すらなきにしもあらずであるが、その觀方は我が民族性を知らざる者の皮想觀である。我が民族は座食を好まぬ民族である證左とも見られる。

即ち勇躍敢爲なる戰にまつて一切の事柄を自己の生命に抱擁して飽くまで向上進展せずには止まざる雄大性、發展性の現はれが日本民族の理想とするところであつた。

私は戰爭史により、或は對外的の行動によつて、或は人物の出現によつての其の民族的國民的の活動實現については、普通の日本歴史といはれて居る所謂戰爭史に讓することゝし、此處には文化創造の方面から見て、其の理念なるものを明かにせんと思ふ。

彼の聖德太子の十七憲法の制定、三經義疏等の如きは自主的發展の活動のそれであると見られ得る。奈良時代の國史の撰述、平安の遷都、傳教弘法二大師を中心とする文化の展開、「和魂漢才」の表現、鎌倉文化の構成、法然上人の宗教改革や、榮西禪師の淨化運動、親鸞・道元・日蓮三聖の出現による精神界の創造純化の運動、神本佛迹説、愚管抄の構成、太平記讀の濫觴さては徳川時代に於ける道徳政治の實現、水戸光圀の修史大事業、山崎闇齋の垂加神道、山鹿素行の中朝事實、本居宣長・平田篤胤等の神道國學の研究著述、やがては明治維新の大業となり、歐米文化の輸入は五ヶ條の御誓文の「廣ク知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ」といふことによつて文化構成の自主的活動として現はれたものである。

明治の初期は歐化に目も尙ほ足らなかつた。即ち國民思想の指導者として福澤諭吉、中村正直、中江篤介、新島襄などが其の運動に努めた。そして十一年には板垣氏の自由民論權起り、十

二年には國會開設の請願書の提出あり、十四年小學校教員心得の發布となり、國會開設の詔勅下たり、十五年幼學綱要の頒布あり、東洋道德の尊重となつた。十八年森有禮文部大臣となり、徹底的に國家主義的の國民教育が盛になつたのである。

やがて自由主義と國家主義の對抗衝突となり、「國民の友」「日本人」の發刊があつた。前者は歐化主義を代表するものであり、後者は國粹主義を代表する思想雜誌であつた。二十一年市町村制布かれ、二十二年憲法發布となり、二十三年第一回帝國議會開會せられ、具體的に調和的の活動期となつたのである。二十三年の教育勅語の渙發は國民道德の指針統一となつたものである。

以後古文學の復興、西洋近代思想科學の輸入あり、日清日露の大戦は國民的自覺を興へ、日本主義の提唱となり、世界大戦後に於ける世界改造の方向は平等化、社會化の思想運動として現はれた。其の極端なる物は反國主義なる思想を主張するに至り、其の反動として國家主義運動が現はれて來たのである。

以上の如く走馬燈の如き活動を以て國民史は造られて來たものである。明治史に於て殊に其

の理想的活動の躍進は激しかつたのである。

### 日本教育の目途

以上私は民族の理想について述べた。私は自分の教育理想とする歸結點が國民精神の教養であり、狹義の國民教育（小學校令第一條）であることを述べんとする豫件基礎として乃至は根本として民族乃至國民の理想を述べたのである。

デイルタイは言つた。「教育學は歴史と生活とから考へるの外はない。國民の歴史的特質が教育の制度に持ち來らるべく凡ての國民の教育よりする根本的理論を以ては解決せられない」と私は此の歴史と生活から教育理論を建設しやうと思案しつゝあるものである。

スプランガーも述べて居る。「科學的教育學は國民生活から誕生せねばならぬ。」と私は我が民族乃至國民生活の表現たる國民生活、國民文化の上に立つて、教育學を建てやうとしつゝあるものである。其故に日本民族、日本國民の歴史生活を一貫しつゝある民族道念乃至國民道念を考察したるものである。本文はかゝる道念の上に建設せられべき教育理論の論述が主なる目

的ではないから、極めて概観に止めたのである。

私は進んで民族道念、乃至國民道念が、私の目途する教育の目的に教育の方法に對して如何なる方向を指示しつゝあるかを述べやうと思ふ。曰くそれは即ち、日本教育に對して自己活動の教育であるべきことと、歴史的社會的の教育であるべきことを意味しつゝあるのである。

#### 〔自己活動の教育〕

民族の自主的精神によつての活動的なる、生命に抱擁する活動乃至は文化創造に對する自主的の活動は、直觀的行動的なる直接經驗の事實たる自己活動の教育を吾人に暗示しつゝあるものである。そしてこの自己は個性であり、活動は作業である。それ故に個性的なる教育と作業的な教育とを暗示するものである。個性は一回的であり、價值的のものであり、全人的全體性の顯現であり、自我純化の姿であり、人格活動の類型であり體驗形式である。而して個性は作業的方法によつて發展するものである。

作業は自己活動、自己の作業を意味する。作業の過程の中には作業の目的の意識と、其の目的を實現する方法の工夫と目的の完成の三者を含んで居る。教育の對照たる兒童期のやや進ん

だ時代に於ける生活たる多様の生活、目的乃至は努力の生活のより直觀的、具體的なる生活の活動としては、自發的な活動に於ても作業的のものであり、又學校生活としても具體的目的なる活動は作業である。活動による作業化の生活學習は、直觀の世界、體驗の世界への直入であつて學校生活に於ては讀書、觀察、實驗、實測、創作、實演等の形式を以て行はれる。

以上の如く學校生活に於ける作業は勤勞勞作の形式によつてなされる具體的目的活動であり作業自身に於て價値があるもので、教育の最後の目的ではない。シュテルンの目的價値の放射流出たる中間價値である。而して作業的方法によつて兒童の生活——體驗的の生活は生活されて行くとき、價値を體驗創造することにより個性の發展となり、人格の發展となるのである。

#### 〔歴史的社會的の教育〕

民族の平等なる融和渾一的なる、精神的結合主義の理想による活動は、具體的全一的の生活共同的の生活即ち社會的の生活を指示して居ると信するのである。其の社會的の生活は全一的に歴史的基礎を持つ國民體驗生活である。

社會的の生活は生活を意味し、文化國家の建設を主眼とする愛と敬との生活として現はれる。

## 本日愛の生活學校

---

教育が歴史的社會的なることは即ち歴史的、國民的生活活動による教育と社會的協同的生活活動による教育であらねばならぬ。

その具體的統一的なる生活を單位としての教育は、生活への接近となり結合的共同的の念が養はれるのは勿論のこと、労働とか勤勉とかの精神も培はれる。従て大直觀的教育、生活單元の教育、協同自治の生活々動による教育であるべきであり、概念注入の形式教育ではないことである。

彼の協同精神に基づく團體活動たる校外自治教育施設、ボーイスカウトの一夜會奉仕日の如き少年公民教育の立場も之れから生まれるのである。

## 日本愛の生活教育 愛の學校

彼の御大典にて聖駕西行の折、御奉送に寒い夜風も物かはと座り込んで徹底した市民、拜觀の状況を老母に物語らんとして、その光榮に満悦して歸へる赤子、さては鳳輦を今か今かとお待ち申上げる心境、それこそ水を撒いた様な情景、思はず涙を流さんばかりの感激に打たれ、至尊の安らかならんことを祈念する心、かうした心境こそ眞の吾が日本人の心境であらう。吾々はかうした心境を兒童・生徒の平常心として持ち続けさせて行きたいと思ふものである。

私の學校の校庭中心に、約廿三米の旗竿が立てられ、その先頭に日の丸の旗が、毎日ひるがへる様になつたのは、去る年の四月廿九日の第一回の日長節の日からであつた。それこそ毎日朝早くから兒童が歸つてしまふまで掲げられて居る。

かうして毎日々々掲げられるために、最も丈夫に作られた國旗も、いつか破れてその五分の

一が失はれてしまつた。處が尋常五年の女生が、是非あの名譽ある國旗を私達で新調したい。そして運動會の當日から新しい物を掲げたいと申出でて來た。その運動會といふのは、御大典奉祝の陸上運動會であつたのだ。

全く私は喜しかつた。涙のにじむ気持ちで受けた。私は五十九名の兒童が心から學校を愛してくれる、その小さい心の上に一人々々感謝の心をやつたのであつた。

かつて私の學校で義務教育を終つた兒童の中に、ほんとの朝鮮生れの張玉奇さんといふ女生がある。私の學校の生活を私達と生活して、卒業證書を上げたとき位喜しかつたことはない。毎日張さんは他の子供と同じく生活日誌を書いて居たが、私の學校の生活に満足して居る様であつた。

やがて張さんは高等科へ進級し高等一年を終らうとしたとき、お父様が朝鮮へ轉勤せられることになつたのである。それで張さんにお別れするといふことになり、同級生は心から集つて送別會を開いてやつた。先生達もそれに加つて涙の中に送つたものであつた。

かうして張さんは京城の女學校に入つた。張さんは私達と同じ魂の持主となつて歸られたの

であるが、度々お便りがあり、いろ／＼と生活の近状が報せられる。常に私が朝鮮に旅行することを待つて居てくれる様である。

愛の學校には生活を味つて行く生活が行はれる。即ち彼等の感性を動かす生活が行はれる。生活を味はふ生活、感情を動かす生活とは、それはあふるゝ愛の生活である。

山下徳治學兄、賢臺からいたゞきました書信を公開致しますことをお許し下さい。私の愛の學校を、ほんとに理解して下さつたことを信じますことから是非に掲げさせていたゞきたいのです。いろ／＼の意味からして公開することを躊躇致しましたが、思ひ切つて載せました。御迷惑の數々お許し下さる。

かねてから尊敬と期待とを持つてゐました田島小學校の山崎校長初め同僚諸兄姉、

御世話になりました二日間のことを思ふと何と御禮申してよいかたゞ／＼感謝の心で一パイです。こゝに厚く御禮申上げます。

そして又何にも増して御校の教育に對して吾々は「世界人類の名を以て感謝」しなければなら

ぬと思ひます。

生活から離れた今日の學校教育が如何にその專問的、孤立的領域に、全く固形化した理論と閉鎖された體系とを以て、自由とは名のみで内面的なる解放もなく、人格の尊重もなく、壓制と束縛とでかためられてゐるか驚くの外はありません。子供本來の自發的自己活動と言つてもちつとも兒童の性質は究められてありません。

従つて今日一般の學校は千供にとつては「大人のたべ物を無理に與へられる牢獄」と化し去つて居るやうです。

自由が若し「必然性の自己認識」であるならば自由とは正義を目指した理性的認識を前提してゐると思ひます。

然し理性的認識と言つても第二次的であつて、それは實踐を地盤として育つものであつて欲しいと思ひます。

實踐や事實が一切の理論體系の唯一の而して永遠に汲み盡すことのない根據であるかと思ひ

ます。必然性の自己認識、それは單なる論理的判断でなく、それよりはもつと全人格的な内的判断であると思ひます。

それは自ら立法し、自ら遵法して行く統一的立場であつて、其故にまさしく道德的判断であると思ひます。

ペルクソンが言つてゐるやうに「人間は知るために知ることを狙はない。眞に行はんがため決意せんがため知ることを目指す」のだと思つてゐます。

内容から見れば、それは道德的認識であつても、それは直ちに神的叡知であると思ひます。必然性の自己認識を含まない自由は既に吾が日本の教育界の一部で試みられ、その成果を得てゐると思ふのですが、それこそはまことに魔術的働きを持つてゐて、いろ／＼の芝居を演じて來たやうです。

人間を今、神へ引き上げたかと思へば又次には動物界に引き下す何れともつかないものだと思ひます。それは、まことに認識を含まないセンチメンタリズムと同じだと思ひます。人間の深い理解に於いて體驗された人格尊重なしには眞の自由は意識出來ないと思ひます。直

観像は單に視覚作用に關係したる直観教授の問題ではなく、愛の世界に於ける内的解放がなければ子供の内的及び外的直観性を活かすことは出來ないと思ひます。ペスタロツチの「直観は一切の認識の出發點であり中心點であるばかりでなく又最後の點でもある」を思ひ出して下さい。

眞實の理論を尊重する故に、吾々は生活を離れ生活と交渉のない、生活に光を與へ生活を救つてくれない一切の理論や體系や哲學を排したいと思ひます。

生活と全然没交渉な現代の主知的或は偏知的教育は決局は、人間を自己疏外に導くより外に落つくところはないと思ひます。

偶々さうした教育の革新問題について初められた試みは所謂新教育の名の下に數々起つたにしても、今にしてそれを思へばそれ等は人類教育への犠牲的愛の心持からの發露ではなくて小才子連中の自己的満足のために爲されたに過ぎなかつたやうです。それでこそそれ等の力

は犠牲的愛の結合となることは出来ませんでした。さうした教育をやるために相集つた人々の間には、遂に自己犠牲の友愛と人間教育への憧憬よりして成る集團意識は生れませんでした。一時はあつたやうに見えたのですが、それは何かの變形した怪物みたいなものに過ぎなかつたのです。直ぐ消えて終ひました。「國滅びて山河在り」です。それ等の教育は又事實に於いて「生くること、己が境遇に於いて幸福であること、及び周圍に對して役に立つ人となること、是が人としての定めであり又子供を教育する目的である」と言つたベスタロツチの精神から見れば、子供そのものを決して幸福に教育してはゐません。

多くの新教育の提唱も、それは古き學習學校の落武者であつて、研究のための研究や名のための研究が多かつたやうに思ひます。經營のための經營なら寧ろない方がましです。いみぢくも同じ苦しみ悩みに於いて、困難ないばら路を敢て冒險せんと、やさしき心情の決意からはなかつたと言ふことを今にして反省させられます。本間俊平先生がよく「人殺しの教育」と仰言つたのが思ひ當ります。

斯かる現状にあつて御校がすでに今日まで成し遂げられた成果だけでも、私には限りない感謝で一パイです。

シヨウペンハウエルの「倫理學」の表紙の標語に「道德を説教するは易く、之を建設するは難い」とあるさうですが、教育も之と同じでせう。

御校に於ける、先生方の柔い感情と眞摯さが何よりも寶であると感じました。

それは利益社會に於ける機械的連鎖を、犠牲社會に於ける有機的愛の活ける結合に高める最も根源的なるものであると思つたからです。

現代は英雄主義では全然駄目であります。封建時代にはそれでなければならなかつたものが今日は却つてそれが個人や社會生活の進歩の否定となるまで變つてゐると思ひます。

愛の共同作業は、うちから働いて必ず人間業以上の力を産み出してくれると思ひます。

さうした共同生活の中に各人の中に愛は目覺め育つのだと私は信じてゐます。

生れた愛はその團體の結合を益々かたくして其の事業に永遠性を賦與するものだと言は歴史は證明してくれてゐます。



世界歴史の計劃に、斯くして吾々の事業が參與し得た限りに於いて一回切りの人生が不安でもあり、頼もしくもあり、恐ろしくもあるのでは無いでせうか。

私はさうした愛の團體を御校に於いて發見いたしました。

いろ／＼の點から御校の教育が徹底的で極めて自然的に無理なく育つてゐるのは御校教育の根本問題や基礎構造に無理がなく、人間教育の根本問題が其の中心に於いて把握されてゐるからであらうとつく／＼考へさせられました。

心の素直さ、清さを失つた利己的人間に施す解毒劑はないとか申しますが、御校にはほんといよ同僚諸兄弟をもたれたものといろんな意味に於いて同慶に堪えません。

御校に對する私の尊敬と期待は過去を通してとはあつたにしても、それはより以上に今後の問題であることを思ふて唯々御校の日本教育に對する位置と責任とを思ふとき皆様の未來には兒童教育の發展過程に於ける、實際に徹することに由つて、愈々研究と犠牲とを要する約束が御校未來の共同生活の中に朶まれてゐるやうに思はれます。

然しその約束こそは休みなき努力を意味してゐても人生最大の喜びであり希望である「聖き約束」でもあるかのやうに思はれます。「吾、生涯、小學校教師たらん」とベスロツチが叫んだのは彼が五十四歳のとき、小學校教育の意義を自覺したときでありました。

日本教育界にとつて大事な田島小學校の親愛なる同僚諸兄弟の御自愛、御自重を衷心懇願する小生の微衷御諒願ひ上げます。

さきに近江八幡に谷騰兄が經營してゐる昭和學園を人間教育の中心から外れてゐない懐かしい學校として見出した私は更に自由學園の教育が、生活とその中心問題の徹底した教育として發見した私は今御校の教育を（殊に吾々の研究を永年の御努力によつて御助け下さつた意味もあります）、それにも増してあつた工場附近に住む、どちらかと云べば下層の勞働者の子弟の教育に於いて、あれ程の人間教育を徹底せしめてゐられることをいろ／＼の機會に伺ひ知りまして唯々言外の喜びで胸も一パイです。

さうした喜びを包んで家に歸りました。時も時うちには京都大學の岩井勝二郎教授から、京大の心理教室の學生でイエンスユ氏のアイラーチツクを研究したいと希望してゐる學生を今

夏よろしくたのむとの依頼の手紙がといておきました。

山崎校長殿 いろ／＼の御本いたゞいて有難うございました。井下治郎兄御手紙と忘れ物の御送附まことに有難うございました。正木兄が連日の實驗で大分疲れてゐたと見えて、其の日は忘れ物したり其の代り應接室備付の本を風呂敷に包んで歸つたりして、今日も見えませんでしたので随分カラカツテやりました。

根岸豊兄感激の中にあなたの御話承りました。そして柔い愛の心持の中に恐ろしい信頼のかくれてゐることをつく／＼感じました。

いろ／＼と有難うございました。

又其のうちにいろ／＼おき／＼したいことがありますので御邪魔さしていただきたくと思ひます。其の節はどうぞ御宥しを願ひます。

たゞ、さうしたことに由つて御校の教育の御邪魔にならなければよいと希望してゐます。皆様の御自愛御自重を祈ります。

七月十五日

山下 徳 治

尙機會でもございましたら實驗さして頂きました子供衆へどうぞ宜敷く御傳へを願ひます。

## 日本の子供の教育記録 日章旗を掲ぐ

毎日兒童が病校して歸宅するまでの間、國旗を校庭に掲げる。勿論國旗を代表するものであるが外國あたりでその國の國旗を掲げるのとは意味を異にしてゐる。私の學校で掲げるのは二つの意味を含んでゐるのである。即ち第一には、永遠に彼等兒童の精神生活の上に強い然かも深刻なる印象を刻んでやりたいといふのである。

日本の子供、やがて大國民となるべき現在の少國民である彼等と、日本の國とか、あの日章

旗のひら／＼する状態を印象づけたい。然かも現在の學校に強い學び舎として、強く永遠に刻まれる様な目標のない學校の生活境圍に、そして生れ故郷を別にして、(工場地帯の學校であるために、全國の各府縣から集つて来て、この土地に生活してゐる子供の學校であつて)この學舎に集まるものゝ多數が、各兒童の家庭を中心とする生活環境に、生活を印象づける物のない生活場としてのことであるからである。

吾々の幼時、成長時に於ける印象、例へば祖先代々から傳はる家統とか、その家を代表する大樹とか老木とか建物とかと、その家を印象づけたり、その村の鎮守の森とか、一大老木の一本、或は村中を流れる一條の河とかと印象づけるものである。おそれおほい事ではあるが、秩父宮様に對する秩父郷の光榮に浴するその民の生活振り、かうしたことが、どの位吾々の生活を永遠に支配するかわからないものであると思ふ。

かうした我が學校の日章旗の下に生活する兒童の精神をして、「日本の」といふ心を永遠ならしめよう。この學舎に、この田島に生活した心を刻むことであらう。かくて日本とか、田島とかいふことが深刻に育まれて行くに相違ない。

第二にはもつと手近な指導の對象としては、しつかりやらう、少國民たるもの、田島小學校の兒童たるものは、しつかりやらねばならぬといふことの指標となつてゐる。即ち元氣よく、勇ましく運動せねばならぬ、學習についても他の學校の兒童より以上やらねばならぬ、やれやれといふことを指示せられるに相違ないのである。

かうした生活の指標となるもの、然かも直接の對象となるものである。この日章旗の下に千三百の兒童が、健やかにすく／＼と生ひ立つてゐるのは愉快なことである。次ぎに兒童の『生活記録』の中から、校庭の國旗に對する感想を見やう。

### 校庭の國旗

(尋六男)

A

生

僕は校庭の國旗を見てすが／＼しい感じがしました。

國旗が風にたなびいていました時は實に氣持がよいことでありました。

國旗は我大日本常國を代表したものであります。

そして我が日本人の純かつ美なるを表したものであり、又人々の心を強くすることでもあります。それに我が国旗は外國にも比なき我が大日本帝國の大和魂其のまゝを表したものであり勇ましいものがあります。

国旗には常にかかる頭を下げた方がよいと思ひます。

### 校庭の国旗

(尋六男) B 生

この頃校庭に国旗がひるがへる様になつた。僕は第一に国旗を見てすぐに我が日本を代表するあの大和魂のこもつてゐる国旗であると感しました。

あの国旗の赤い所は、我々國民がほんとうに、しんけんになつた時には火のもえるが如くなるのであるとするのである。

又白い所は、我々國民が平和にくらしてゐる時には何んにも、まじりけのない所のやさしいといふ事をしめしてゐるのである。

## 教育には教師の自覺が先行する

### 教育は愛である

過ぎ去つた私の體驗記録からかうした生活指導の命題が生れて來たのである。いふまでもなく教師と児童との一元的な生活が教育事實である。その境地は働きであり、活動であり、體驗である。その境地に於て先行するものは教師である。即ち教師が先づ前きに自覺するから、かうした働き、活動、體驗が起るものであると私は堅く信じてゐる。

勿論教育作用に於ては、教育者と被教育者とは何れが主であり、何れが副である等といふことは考へない働きである。かうした兩者異つた立場とてはないが、其働きに於て教師は先行すると考へられる。教育者の方が高い序列にあるものであつて、先きに自覺するものであることは争はれない事實であることだけは強い確信を以て言ひ得るのである。

去る年のある日かうしたことが起つた。それは或る日子供同志がふとしたことから、連れだ

つて、田圃の中に土を堀上げて作られた池へ水泳に行つたものである。深いことも深い、六米もあり、廣さも二十アールからある池であつた。五人の仲間同志の中の一人が過つて溺死した事件が起つた。

その事件のあつた數日前、校外自治會役員會で、池で水泳をやる事の可否の問題と、禁止してあつたその内規を許されたい、といふ學校への要求が問題となつたのであるそうだ。

その折、指導當番訓導は「池での水泳は禁止してあるが、學校としても、諸君の要求によつて一應調査はして見よう」といふことであつた。彼等の強い生活欲求問題を簡単に片付けておいたものである。

更らに其の次の役員會にも亦問題となつた。よい場所のない當時、全く彼等の止むに止まれぬ生活問題であつたことに相違はなかつた。この折りも當番訓導は簡単に片付けておいたものである。

かうしたことがかゝる問題を惹起したとも全然斷定は出来ないといふことは明瞭なことではあるが、簡単に片附けたところに、生活に先行して自覺すべき教師としての働きについて考へ

させられる點があるといふのである。

私は水死した彼の子供の遺骸を送つて、やがて學校に歸つてから、更らに家庭に歸つてから悲しみの一夜をあかした。その子供の身の上がそれからそれへと浮んで來た。子供自身について、又彼の父のために悲しんだ。又彼の子供が地震後繼母の手に生活したことや、一生涯のほかなさを追憶した。それにしても何うしても私の頭に一層深く去りやらぬ者は、生活要求についての簡單なる片附け方のことであつた。

勿論彼の子供の生活、實踐はこの指導の先行しないことに全然歸結するものでないことだけは確かであるが、しかしそうした私の心は靜まらなかつた。

子供同志の實踐の出來なかつたことが産んだ結果には相違ない。子供同志の出來心で行つたんだとはいふものゝ、考へて見れば結局は實踐の問題にならう、實踐の問題となつた時、教師の自覺が先行しなかつたことに落付いて來る。即ち彼等の生活を一層深刻に考へてやらぬ結果ではないか。實踐についての指導の物足らぬことに考へが及んで來る。そして指導意識の十分に働かなんたことが、かなりの因を引いて居るではないかと、自ら責めざるを得ないのである。

かく指導意識に於て缺けることを痛切に思ふものである。かうしたことに生活指導の不徹底を思はざるを得なんだ。指導意識の働きは、外からの指導、所謂訓育といはれて来た外部からの指導にのみ必要である様に考へられて来たものであるが、それは外からの指導のみに限つた働きではない彼等の内からの生活に對しての必要が考へさせられたのである。

近來の學校生活に於ては、所謂訓育といはれた方面の指導施設として、何れの學校を見るも第一に自治會とか、自治生活施設を以てしてゐる者が大部分を占めて居る様である。これ自覺への生活指導であり、内からの所謂訓育であると思ふ。即ち兒童自身に道德的な人間性の生活を創造させやうとする傾向、態度であり、訓育は自らの訓育であることになつた。

しかしそれが次第に内へ傾き過ぎて、一面の動力に偏し、教師の自覺を忘れられて来た傾向がある。何といつても教育が、教師と兒童との自覺であることに誤りはない。この兒童の自覺に指導意識が必要である。即ち先づ教師の自覺が必要であるのだ。

私をして感得せしめたことはそれである。外からの訓育に教師の自覺に基づく指導意識を必要とするは勿論のこと、内からの訓育即ち生活指導には、より指導意識の必要なるを。内から

の訓育とは言葉が悪いが思惟によつて感得する基礎經驗乃至實踐のことである。實踐こそ教師の自覺に始まることである。

かうした私のいたましい體驗生活が、眞の教育の姿を覺らしめたのであつた。眞の自治實踐は、指導意識の動力によつてのみ表はれるものである。この意識が彼等の生活の中に、心強く働くことを要する。強き自覺の先行こそ必要である。

彼の傍觀的な働きでは感得せしめることゝは出来ない。深き動力によつてのみ、深き動力を育ましめ得られるのである。かうした自覺の先行する事實こそ愛である。兒童愛である。それ故自治實踐は愛の直觀に始まるものであると思ふ。愛の直觀は思惟であり、感得である。思惟と感得とによつて、愛を確認し、愛創造の生活を現出するものであらう。

全く取返へしのかぬ大きな犠牲であつた。自覺の先行しなかつたことが産んだ一大悲劇であつた。教育者としてこれ程いたましいことはない。

それは外からの訓練にも兒童を、人の子を害ふことも實に多いが、内からの訓育、實踐への自覺にかうしたことも多くあらう。彼の人の子を害ひつゝあること多きと思ふのである。

私の偽らざる告白と、眞の自覺とを述べたのである。私がかうした誰でもが得られない最も  
 貴い自覺を得、私の子等のためにほんたうの愛に生ききつた生活を生活する時、自分一人自分  
 だけを撫め得られてゐる。

## 研究學校の經營は同行者の一體 愛の學校

私が現在經營して得る學校を新學校といつて下さつたり、新教育新研究學校といつて下さつ  
 たりする。その學校を形式の上から見れば、公立小學校であつて、私立に對し何となく法令の  
 束縛を受けて、形の上から何とはなしに不自由な學校の様に想はれて居る様である。

そしてその公の形式を以て強ひられて居る學校が、研究的な學校となるべく内容即ち教育組  
 織をよくも變へた、仲々大變であつたらうと、その點の讚辭を受けたりした。又新學校として  
 よくも職員をあれだけ揃へ、教育改造と教育の再組織への努力が出来た。公立小學校としての

最頂點までの研究組織をよくやつたと言はれたりした。

何れにしてもかうした公立學校で（新研究學校、新學校とか言はれることは別問題として）、  
 私の考へる眞實の教育をやるべく教育事實の凝視によつて、教育の再組織をやること、即ち所  
 謂學校經營は何が中心であつたか、何が中心生命に流れて居たかを反省して見ようと思ふので  
 ある。それが若し同じ道に進む人の幾分たりとも、よすがともならばこの上なは幸なことであ  
 ると思ふ。

公立小學校とか新研究學校とか新學校といふ名辭をぬきにして、兎に角平凡に考へて小學校  
 の教育、その小學校の教育を内容とする名辭の教育を何うするかを考へたとき、それは先づ私  
 は其の方向についてかう考へた。

第一、千有三百の兒童が朝學校へ來てから歸へるまで、それが一日中私達の指導意識の中に  
 あつて然かも私達と同行して居ることが明瞭になつて居らねばならぬ。それは一個人として即  
 ち一人々々として考へられたり、又同時に團體生活をして居ることを考へられたりして、兎に  
 角私達の頭に往來し居らねばならぬ。即ち一人々々の發展とか生活とか、先づ徹底する様に

考へられなければならないではないか、そして其の一人の集つた團體の生活といふことが考へられて常に經營せられなければならない。

かくて一日々々と彼等は眞實の生活を續けて行く、その時こそ生活は充實し深化して行くものであり、生活は發展するものであらうと。

その反對に概念的に學校の形式といふ様な方面を考へたとする時、四角四面な形式のみの整つた生活をやらせることになり、設備も形の上の立派なものであつて、生活の設備でなくなることになる。形式的團體的生活のため引づられて義務教育を経て行くことになり、自分といふものを覺る機會もなく、規定の教科書を一と渡り済ませて過ぎて行くのではないか。

又第三者即ち父兄とか一般學校の区域内の人々の評判とか宣傳のためにと對者を常に念頭においた教育經營を採るべきではないと思ふのである。私の聞いた學校には對外的といふ學校行事を表示した名辭があつて、對外者のための經營が考へられるといふことであつた。

父兄會をやるにも學藝會を本位として父兄に見せることを以てする。その練習を随分永い間やる。運動會も二ヶ月もかゝつて、そのプログラムの練習をして、お祭的な外形を造る。遠足を

見ても兒童の遠足であるかを疑はせるといふ。

兎に角かうした外形的な生活、對外的な行事とでも言ふべき行事が學校の一年の生活全體を一貫して居る。かくて一年に入學するから六ヶ年を経て卒業するまで繰返へされて行くと聞いて居る。

私の考へでは對外も對内もないと思ふ。兒童の生活がすく／＼と行くのが眞の生活ではないかと私は信ずる。しみ／＼と考へさせたり。作らせたり、繼續的な研究に没頭せしめたりすること、それが學校内、教室内で行はれ、或は自然及び文化の環境の中に實現せられることが生活ではないかと信ずるのである。

この生活させるところに、豫定とか計畫とかあり、實施があり、反省があり、結果があり否流續それ自體であつて、それが所謂經營の姿ではないかと思ふのである。

要するに兒童が眞に生活することであり、教師は兒童に眞に生活させることであり、共に生活することであり、同行である。それは流續の自體の姿であり、それを教師の先行する立場から見ればよりよく生活させることであり、客觀的に觀るならば人間を造ることであらうと信ず



る。

又私に對して多くの參觀の方が、何うして職員を指導するかと質問せられる。これを言葉を変へて言へば教員の研究はどうして進めて行くかといふことにならう。この質問は公立學校であつて然かも研究學校の經營といふことに基礎を持つた私の立場についての質問であると思ふ。

私は答へた。私の生活して來たそれを。即ち私の經營についてである。私は同行して來た。それが指導といふ言葉に當らう。即ち兒童の實生活の上に相互が問題を求めた。そしてその問題を中心として研究をば、共同戦線に立つた形で進めることに努めたのである。三十名の職員の方々が一人なし問題を持つて居る。その問題は継続的に研究を続けつゝあるのである。

私は同行者が持つ問題の研究についてその過程について隨時報告を受けたり相談を受けたりする。そして研究を進めて行く、若し私の學校だけの發表機關即ち、機關雜誌でもあるならば報告を受ける必要もないであらうかと思ふ。

更らに直接の學級經營については、同行者が經營の實際記録を毎週整理してゐる。それは形

式にわたらず、眞の内容をありのままに雜記してゐる。そしてよりよき生活を生活せしめる一里塚としても居る。私はこの記録を時折拜見してそして經營の實際を理解することに努めるし且つは研究的な方向への相談にも應じてゐるのである。

又一方には共同的な研究問題を、その學年の始期に協議して決定する。更らに各學期の始めにはこれが分割的な豫定實施案を定めることにする。そして實際研究を全體的に押して行く様にしてゐる。

かくて要するに研究學校として乃至は公立小學校としての經營の實體は、かゝる一體的の流動それ自身であると信ずる。私の經營がそうした確信を與へたのである。

## 職業紹介と職業指導

受持の兒童や卒業兒童の實際社會への職業紹介はかなり澤山やつたものである。即ち個人商店の見習店員、銀行の給仕、會社の少年工給仕等の希望者を、求人者との間に立つて紹介し就

職せしめたのである。さうしたことが例になつて幾年か續けられて來た。

ところが今から五年前のことである。私の町に獨逸のシーメンスと日本の古河電氣との合同になる富士電機製造會社なるものが出來た。それで例によつて將來は社員に昇格せしめるからといふことで幾人かの給仕職工を紹介してやつた。

かうして給仕六名、倉庫係一名、青寫眞係二名を紹介就職せしめたのであるが、いよ／＼見習して見ての實感を、彼等はしきりに報告して來た。又時折り學校を訪ねて、いろ／＼と在學中の指導して欲しかつた點などを述べたのであつた。こゝに私は職業的指導の組織化を痛感したものである。

彼等卒業生がかくまで研究的な態度で出て來たのは、二つの大きな動因があつた様である。即ちその一つは彼等の將來を會社側が保證したことにあつた。自分の方から解備はしないといふ根本的な動力を興へたことである。第二には小社員としての待遇を興へてくれた事である。それもそのはずで、少年を入社せしめて我が社を心から思ふ者を次第に養成して行かうといふことが根本的の基因となつた。そして通り一遍の會社生活や事務處理の見習ではなくて會社は

永久的な考への上に、我が社員の養成として心から注意したのである。當事者なる本人も心から會社を理解すべく努め、事務のことから生活の全般に希望を持つてその日その日の作業に勵んだのである。かうした過程が産んだ心からの學校への言葉であつた。

やがて會社はいろ／＼と感想を述べ立てゝ來た。なか／＼現在の庶務課長の熱心なこと、ほんとに自分の社の將來は勿論、現在から將來へと考へて努めて居られることがよく分つたのである。先方では會社を思ふ一念からであらうが、私から見ればその熱心さ、その研究的の態度に感心させられたのである。

入社の際の實際について見るも、全く一人々々詳細に内申書を（學校長からの）照合する。電話で何回私呼び出されるか知れない。學校を訪ねられる。勿論私の學校の教育を理解して居てくれるが、その上に個人の調査といふよりも個人の理解といつた方がよい程度までなされる口頭試験もなか／＼行届いて居る。

身體検査も學校と連絡をとつてなされる。殊に家庭狀況や生活態度、思想の實踐方面については特に留意して居られる。

かうしたことが一般陶冶と相まつて職業陶冶についての大きなヒントを興へたのであることを深く信ずる。

かうしたことから學校で會社に就職の紹介をしてもらうことは、將來のためによいといふこと、即ち安心して委かせられるといふことや、現在としても比較的よい地位を得られるといふことは或は子供の力相應の仕事に就かれることからであらう。

私が日記を繰つて見ると、高一修業の佐藤、江連といふ二生徒の母親が學校に私を訪ねて来たことがある。

さうだ、忘もしない三月の三十一日であつた。兩方とも職工のお上さんで、我が子のことを心配して、出来るならば校長に頼んで、家計の點からもよくないので高一修業で下けて會社に入れてもらひたいといふのであつた。校長さんに頼むと入るときもよし、入つてからもよいさうだ、一つ是非にといふことであつた。

私はその二生徒の母親に高等小學の卒業が實際社會への一つの力ある基礎であることをよく解るまで説いたり、卒業の折りは必らず、その子供の力に應はしい方向へ責任を以て力添へを

する約束をし安心を興へたりしたのである。また家庭に於けるその子供の生活態度を細々聞いたり、兩親から家庭の暮し向きなどについても少しも飾りのない話があつたりして喜んで歸つたのであつた。

かくて子供同志の間でも私から紹介してもらへば何とかなるといふ心で學校生活を送つて居る様な事實がいろ／＼と見受けられるし、また各父兄もさうした氣持ちで居られる様に見受けられる。

轉職の相談に來られたり會社に對する希望を私まで持つて來られたり、他の會社をやめた者が來られて、部内の何會社に申込んで置いたから先生からも是非に頼むなど、言つて來る。誠に困ることもあるが、考へて見て實に愉快なことでもある。

かうなるまでには私は五年前、各會社（私の學校の部内にある）から詳細に亘る採用方針を得たのである。所謂職業分橋とも見るべきものである。何れにしても身體、年齢、知能、修業程度及びその全體人物の如何を定めてあり、採用方法も明示されてあつたことは便宜が多くあつた。

かくて各會社は採用員數を學校へ通報して來る。それによつて希望者を集め、學校は各個性の調査を基準として保證附の形式で會社に紹介してやつた。その成績によつて就職が決定せられるのである。

以上は職業紹介について述べたのであるが、なによりも私を痛感せしめたのは、職業指導についてである。

先づ「職業指導細目」を作製した。そしてその内容とすることは次ぎの十項を以てしたのである。

1. 職業と個人及社會の發展
2. 正當なる職業の要件
3. 職業と成功觀、運命觀
4. 一般職業の種類と適應の心身
5. 職業選擇の標準
6. 職業の相談と決定

7. 職業道德
8. 職業病と豫防
9. 労働問題に對する態度
10. 職業的生活態度

かうした職業科とでもいふべき教育は、實業教科の時間の中に於て取扱ふこととした。それが便利であるからである。

次ぎに職業的な立場に於ての見學が必要である。實際的社會的な直觀基礎を附與するため見學を系統的に行つたのである。即ち職業的の見學に於て指導せられる内容は次ぎの五項についてである。

1. 工場參觀
2. 商店參觀
3. 栽培場、飼育場參觀

- 4. 銀行、官廳會社參觀
- 5. 職業見習、職業見學

更らに實業教科に對する態度については、實業教科相互の間の關聯を考へることは勿論のこと、その實業は郷土的實業の全般を考へると共に、その中心となるものをも考へて學習の指導をなすこととしたのである。

## 小學教育の破壊終

昭和五年八月廿五日印刷  
昭和五年九月一日發行

### 小學教育の破壊

定價 金二圓

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 著者  | 山崎博                   |
| 發行者 | 東京市小石川區竹早町三六<br>松尾貞治  |
| 印刷者 | 東京市小石川區竹早町三六<br>宮川辰信  |
| 製本者 | 東京市麴町區飯田町五ノ七<br>小暮林之助 |

### 大賣捌

|     |       |
|-----|-------|
| 東京  | 栗田書店  |
| 大阪  | 大阪實文館 |
| 同大  | 柳原書店  |
| 同古  | 川瀬書店  |
| 古屋  | 星野書店  |
| 同   |       |
| 久留米 | 菊竹金文堂 |
| 佐賀  | 大坪惇信堂 |
| 長岡  | 目黒書店  |
| 弘前  | 今泉書店  |
| 千葉  | 松田屋書店 |

發行所 郁文書院  
東京市小石川區竹早町三十六番地

振替東京六〇二三九番  
電話小石川四三一六番

◆ 書圖良優の院書文郁 ◆

東京女師訓導 守屋貫秀著

低學年より  
高學年への**發展的學級經營**

東京女師訓導 守屋貫秀著

低學年  
教**育** **遊戲の學習化**

東京女高師主事 北澤種一序 關勝男著

**學校學級統整の根本的革新**

菊判新式雅裝  
定價 二圓五十錢  
送料十四錢

四六判獨特最  
新式組高雅裝  
定價 二圓二十錢

四六判四五〇頁  
定價 三圓二十錢  
送料十四錢

◆ 書圖良優の院書文郁 ◆

東京高師教官 稻次靜一著

**算術の本質と指導の根底**

東京高師教官 稻次靜一著 上卷 自尋一至尋三

**算術教材の建設と指導**

東京高師教官 稻次靜一著 下卷 自尋三至尋六

**算術教材の建設と指導**

六四判實錄例  
凸版多數上布  
最新美裝  
定價 金 二圓

四六判九ホ横組  
凸版百頁入上製  
定價 二圓五十錢

四六判九ホ横組  
定價 二圓七十錢  
送料十四錢

◆ 書圖良優の院書文郁 ◆

東京高師教官 川島次郎著 前篇 自尋一至尋三

尋常 小學 修身例話と其の活用

東京高師教官 山田義直著

國史教育重要問題十講

東京高師教官 川島次郎著 後篇 自尋四至尋五

尋常 小學 修身例話と其の活用

四六判六百頁總  
背革製原色版  
教材名畫多數入  
定價 三圓七十錢

四六判三百數十頁  
羽二重高雅裝  
定價 二圓三十錢

四六判六百頁總背  
革製原色版  
教材名畫多數入  
定價 四圓三十錢

◆ 書圖良優の院書文郁 ◆

東京女高師教官 齋藤英夫著

地理教授の革新的新主張

東京高師助教授 中島海著

小學校 體操科指導の革新  
に於ける

東京女高師教官 岩下吉衛著

生活指導の算術教育

著者獨特の雄叫び  
四六判九ホ組背皮  
價二・五〇送〇・一四

四六判新式美裝  
寫真廿枚實際例多  
價三圓 送十四錢

著者が廿年の體驗蒞  
蓄の顯現四六判橫組  
價二・五〇送〇・一四

◆ 書圖良優の院書文郁 ◆

東京高師教官 高橋喜藤治著

讀方學習指導要領

四六判約五百頁  
背革最新優雅製  
定價 金 三 圓

東京高師教官 飯田恒作著

綴方の本と指導の實際

四六判五百餘頁  
最上布優雅裝  
定價 三圓二十錢

東京高師教官 馬淵冷佑 矢田枯柏 共著

小學校に於ける俳句の作り方

四六判二百餘頁  
最新式優雅特製  
定價 一圓八十錢



272  
86

終